

令和 7 年度

教育委員会の事務に関する点検・評価報告書

(令和 6 年度対象)

入間市教育委員会

目 次

◇ はじめに、点検・評価の基本方針	1
◇ 外部評価（全体を通して）	3
◇ 点検評価シート	8
◇ 「令和6年度入間市の教育」抜粋	69

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表する必要があることから、本市教育委員会は、本報告書を作成したものである。

なお、首長部局にて委任や補助執行等を行っている事務のうち、本市教育委員会の権限に属する事務については、当該報告書にて点検・評価を行った。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の基本方針

1 目的

本市教育委員会では、毎年「入間市の教育」を策定して、その中で基本理念及び基本方針を定め、その目標に沿った事業を展開している。（P69「令和6年度入間市の教育」抜粋参照）

効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様に対する説明責任を果たしていくことを目的として、地教行法の規定により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果について議会に報告するとともに、市公式ホームページに公表するものである。

2 施策を評価する表における「指標の推移」及び「成果実績」について

「指標の推移」については、令和8年度末において達成を目指す施策の成果や達成度を測るために、指標及び説明とともに令和8年度までの実績値を掲載している。

「成果実績」については、目標値の設定がない施策について、令和8年度までの成果実績を数値化し、実績値及び達成状況の把握を行う。

点検・評価方法

①自己評価

毎年策定している「入間市の教育」の政策ごとの各施策について、施策の目標、取り組み状況を明記し、評価基準にそった自己評価を行うとともに今後の方針を明らかにした。

【評価基準】

評 価	基 準
A	施策、事業の達成度、進ちよくが順調である。 目標値に対し達成度が非常に高い。 目標値の場合、基準値（令和2年度）を基本とし目標値からみて実績値の達成状況が80%以上
B	施策、事業の達成度、進ちよくがおおむね順調である。 目標値に対し達成度が高い。 目標値の場合、基準値（令和2年度）を基本とし目標値からみて実績値の達成状況が50%以上80%未満
C	施策、事業の達成度、進ちよくがあまり順調でない。 目標値に対し達成度がやや低い。 目標値の場合、基準値（令和2年度）を基本とし目標値からみて実績値の達成状況が20%以上50%未満
D	施策、事業の達成度、進ちよくが順調でない。 目標値に対し達成度が低い。 目標値の場合、基準値（令和2年度）を基本とし目標値からみて実績値の達成状況が20%未満

※目標値は、その施策の目標・目的の中で数値化できるものを表したものの。

施策の評価は、指標の進ちよくだけでなく、その他の事業実績等も包含した上で総合的に評価している。

②外部評価

自己評価に対して、学識経験者（駿河台大学 西村 貴之 先生 及び東京家政大学 小櫃 智子 先生）に外部評価をお願いした。なお、この外部評価については、全体を通した評価と政策毎の評価をしていただいた。

学識経験者の意見等（知見の活用について）

教育委員会の事務点検評価報告書作成過程において、次のとおり学識経験者から意見があり、それらを踏まえ部分的に修正を行いながら、本点検評価報告書を作成した。

1. 全体を通して

駿河台大学 西村 貴之 先生（スポーツ科学部 教授）

「教育委員会の事務に関する点検・評価報告書」全体を通し、意見申し上げます。

本年度は、アフターコロナ2年目を迎え、各政策の取組指標の推移を拝見する限り、その多くが令和元年度の実績に近づいているあるいはそれ以上に到達されている項目もあるなど、豊かな市民生活を取り戻す教育行政が丁寧に推進された成果が表れており、関係各位の努力に敬意を表します。

入間市の教育〈グランドデザイン〉にあります地域学校協働活動は、学校教育領域と社会教育領域の取組を連携させながら、地域全体で子どもの人格の完成をめざした発達援助をおこなう大変重要な活動です。どのように多様な地域住民の協働を実現していけるのかは、教育行政部局内の各課の連携のみならず関係部局との横断的な協働にかかっていると考えます。例えば、全国的に教員の働き方改革と連動しながら検討が進められています休日の部活動地域移行に関して、埼玉県でも「埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業」がおこなわれています。令和6年度本事業を受託した入間市スポーツクラブの地域ミーティング資料によれば、「部活動地域移行に関する意識において、県と各市の温度差がある。入間市においても教育委員会を始めとする各関連部署等に周知を求める活動をする必要がある」といった課題が指摘されています。この部活動地域移行化の動向は、青少年スポーツとしての地域スポーツ環境の再構築がおこなわれる大きな転機であり、教育課程外でありながら教育的価値が高い部活動の指導に対して、地域でどのように対応できるかについて、教育委員会が積極的に、学校、保護者、地域の仲介者としてリーダーシップを期待されています。部活動で扱われている競技・種目と生涯スポー

ツでおこなわれる競技・種目のズレなども考慮に入れるならば、教育委員会内においても学校教育課と社会教育課との連携・協働が求められてまいります。この部活動地域移行化以外でも、本年度の施策の評価を拝見しますと、施策の内容によっては社会教育課内の博物館や公民館といった担当課間で連携・協働が推進されることでより市民の生涯学習が豊かになっていく可能性があると考えております。次年度も引き続き円滑な施策実施を期待するとともに、教育行政部局と他部局間、教育行政部局内での担当課間での連携・協働による新たな事業の企画や運営を模索されますことを期待いたします。

東京家政大学 小櫃 智子 先生（子ども支援学部 教授）

令和7年度「教育委員会の事務に関する点検・評価報告書」を拝見いたしました。あらためまして、入間市の教育に係る様々な取組に関わられた全ての皆様に敬意を表するとともに、このような機会を頂戴したことに心より感謝申し上げます。

全体を通して、各項目について、適切かつ丁寧な点検・評価がなされていると思います。令和6年度の点検・評価の報告を受け、今後の入間市の教育行政の方向性について期待することとして、入間市教育の基本として設定された「夢の実現に向けた学校教育の充実」、「地域との連携と生きる力の育成」、「学びと実践による地域づくり」の3点から意見を述べさせていただきます。

1) 夢の実現に向けた学校教育の充実

研修会の開催や児童発達支援センターとの定期的な情報交換、また全ての未就学施設への巡回支援の実施等、子ども未来室事業の推進を積極的に図り、支援の必要な子どもに対する育ちや学びを保障するための取組に力を入れられた点についてたいへん評価できます。幼児の通級指導教室「茶おちゃお」に在籍する幼児が入学を予定している小学校との情報交換会の実施や保育士と教諭を対象とする発達障害への適切な対応と支援方法を学ぶ研修会の実施等、保幼小の接続の視点でも取組の充実が図られました。障害の有無に関係なく、どの子どもも自分の夢の実現に向けて歩いていくことができるよう支援が充実されていると思います。また、すべての子どもが「わかる」「できる」ことを目指したユニバーサルデザインの視点に立った教育の展開にも重点を置いており、教職員の資質向上に向けた取組や学力向上のための取組等にも力を入れ、充実が図られました。

入間市の教育では、多様な子どもたちが共に学ぶことができるインクルーシブ教育のシステムの構築を推進することとしています。今後は、障害のある子どもも、ない子どもも共に学び合うための具体的な取組に期待したいと思います。また、障害だけでなく、異なる文化を背景に持つ子ども、医療的ケアを必要とする子ども、性的マイノリティの子ども等、多様な子どもの存在に目を向け、子どもたちが多様性を受け入れ、認め合う気持ちを育むことが、目指す共生社会の実現に繋がるものと考えます。このことは、施策1に挙げている「人権教育」の取組とも通ずるものであり、各施策の連動性も捉えながら包括的な視点で取組の内容を充実させるとともに、点検・評価していくことも必要であると思います。

2) 地域との連携と生きる力の育成

学校、家庭、地域が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」を全中学校区で実施され、さらなる充実が図られたとともに、各地区での課題を明確にされ今後に向けての改善点を具体的に示すなど丁寧な点検・評価がなされました。子どもの生活の基盤である家庭はもとより、地域との連携は今後ますます重要です。地域の人の声や力を学校教育に積極的に活かす取組は、学校教育の充実に繋がります。今後も「コミュニティ・スクール」が、地域ごとの特色が活かされた形で発展的に進めていかれることに大きな期待を寄せたいと思います。

こうした取組が、学校教育の充実のためだけに行われるのではなく、家庭生活の充実や、地域の活性化等、それぞれにとって良いものとなるよう互恵性ある取組となるように進めることもまた重要であると考えます。「地域とともにある学校」が目指すものは、地域の子どもも大人も皆がいきいきと学び、主体的にさまざまな地域の活動に取組む姿であると思います。

3) 学びと実践による地域づくり

「市民の学びと実践があふれる地域づくり」として、博物館、図書館、公民館、児童センター、青少年活動センター等、様々な施設において地域と連携した取組が充実していた点についてたいへん評価できます。とりわけ、博物館ではボランティアとの協働による事業が多数実施され、学校と連携した博物館授業の充実が図られました。また、図書館においても小学校をはじめとしさまざまな施設との連携により、読書活動の推進が図られました。児童センターでは、ボランティア会との協働事業、地域の NPO 法人や企業との連携による新たな事業展開等がなされています。

地域住民がそれぞれの持つ力を地域でいきいきと発揮できる場があることは、当事者にとってもまた地域全体にとっても潤いをもたらすものと思います。多くの地域住民が自ら学び、実践したいと思えるような地域づくりのために、今後は、市の施設における行政主導の取組への参画だけでなく、地域住民からの発想と取組を行政が支援していくことも重要ではないかと考えます。市民が主体的に学び、その学びを活かした実践があふれる地域で、子どもたちも主体的に学ぶ楽しさを育んでほしいと思います。

2. 各基本目標について

点検評価に対する学識経験者の意見は、次のとおり分担して依頼した。

駿河台大学 西村 貴之 先生（スポーツ科学部 教授）

①全体を通した評価

②政策（項）ごとの評価

政策2 生涯学習

第1項 生涯学習の推進

政策4 社会教育

第1項 社会教育の充実

第2項 社会教育施設等の整備

政策5 スポーツ・レクリエーション

第1項 生涯スポーツの充実

東京家政大学 小櫃 智子 先生（子ども支援学部 教授）

①全体を通した評価

②政策（項）ごとの評価

政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

第2項 幼児教育の充実

第3項 学校施設の整備

主 な 取 組	人権の啓発							担当課	自己評価
								学校教育課	A
目 標	基本的人権の尊重という普遍的な視点から、総合的・体系的な教育活動の推進、人権教育に係る学習機会の充実などに取り組み、人種・信条・性別・社会的身分・門地（家柄）・年齢・障害の有無等による差別のない、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重する社会を目指す。								
取 組 状 況 及 び 成 果	人権の啓発、人権教育を推進し事業の継続を行い、内容の充実を図った。								
指標及び説明	【指標】 人権作文への取り組み率					【説明】 人権作文に取り組んでいる学校数により、人権啓発活動の充実度を判断します。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値	
	%	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時	
									100
		R 2 有事	100	100	100			R 8 有事	
分 析	指導資料の作成や研修会の実施を通じて、指導内容の充実を図ることができている。								
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続するとともに、これまでの人権問題に加え、生活様式の多様化や国際化、経済格差の広がりにより新たな人権問題が生じており、時代に合った人権教育・啓発活動に取り組む内容の充実を図る。								

※「平時」「有事」とは

本点検・評価報告書における平時とは、with コロナで、様々な制約を受けながらも、日常生活を取り戻しつつある状態を想定しています。有事とは、新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発出され、施設を休館する等、通常の事業ができない非常事態を想定しています。現状値の令和元年度は、年度末にコロナの影響を受けましたが平時とし、令和2年度を有事としています。平時における令和8年度の目標値は、令和8年度まで平時が続いた場合を想定し、有事における令和8年度の目標値は、令和8年度まで有事が続いた場合を想定しています。

また、有事においても、目標値に影響が無い場合は、「－」としています。令和3年度以降に、新規に開始した事業等で、令和2年度以前の現状値を示せない場合は、指標に「新規」と表記し、現状値を「－」としています。

主 な 取 組	人権教育の推進	担当課	自己評価					
		社会教育課	C					
目 標	自ら学び、人権感覚と共生の心を育む人権教育を推進するため、人権啓発講座、人権教育実践報告会等を実施する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	人権問題に関する講演会や講座を通して、広く市民に人権感覚を養い、問題解決のための学習機会を提供している。5 公民館で人権啓発講座（テーマ「災害と人権」「犯罪被害者の人権」「同和問題」「性的マイノリティ」「ケアラー」）を、3 公民館で夏休み人権映画会を開催した。人権教育推進事業として、小中学校PTAが実施している家庭教育学級のテーマに、人権問題を取り上げた。また、学校・PTA・公民館が今年度の人権教育の取り組み事例報告書を作成した。 夏休み人権映画会 3 回実施 延べ49 人 人権啓発講座 5 回実施 延べ73 人 人権問題講演会 53 人参加 PTA 家庭教育学級 5PTA 延べ207 人							
指標及び説明	【指標】人権問題に関する講演会、講習会の参加者数	【説明】人権問題に関する講演会、講習会の参加者数						
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		726	平時	平時	平時			800
		R 2 有事	395	364	382			R 8 有事
		315						800
分 析	人権問題講演会是人権推進課と共催で実施し、PTA 家庭教育学級からの参加者を集めることができた。PTA 家庭教育学級では、従来の講座に加えて在宅型講座を取り入れ、参加者数が大幅に増えた。							
課 題 及 び 改 善 点	より身近に感じられるようなテーマを設定し、参加者の幅を広げられるようにする。また、人権推進課との連携を進める。							

施 策		(1) 人権施策の推進			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価	総合評価
	人権の啓発		学校教育課	A	B
	人権教育の推進		社会教育課	C	
学 識 経 験 者 等 意 見	人権の啓発については、指導資料の作成や研修会の実施が継続され、その内容の充実が図られていることが確認できました。人権作文の取組は、昨年に引き続き 100%を維持されていることは評価できます。				
	人権教育の推進については、人権問題に関する講演会や様々なテーマを取り上げた講座が実施されている点は評価できますが、参加者数が目標値より低い状況です。その理由を様々な角度から分析することが必要であると考えます。PTA 家庭教育学級において、在宅型講座を取り入れたことで参加者数が増えたことは1つのヒントにはなりますが、その他にも様々な理由を分析した上で工夫ある取組に繋げ、参加者が増えることに期待したいと思います。				
自分を大切に、他者も大切にできる心を育むことは、教育の根幹として重要なことと考えます。自分を大切と感じ、他者も自分と同じように大切だと感じる心は、乳幼児期から育まれるものであり、人権教育の基盤になります。そして、それは子どもを取り巻く大人との関係において					

	日々の生活の中でその基礎が培われていきます。子ども一人一人の人権を尊重した保育士や教諭の姿勢が重要になるため、保育士や教諭としての倫理観や子どもの人権に対する知識・意識を高めていくための研修の取組、日常の保育・教育活動の中での自己評価の取組等についても同時に進めていくことが望まれます。また、今後は、乳幼児期からの発達を踏まえた人権教育の体系的なプログラムの充実にも期待したいところです。
--	---

【施策の体系】 1 人権教育

【政策】 第1項 人権の尊重と権利の擁護

【施策】 (2) 平和施策の推進

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 1 1

主 な 取 組	平和意識の高揚						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	「入間市平和都市宣言」の趣旨に基づき、基本的人権の尊重という普遍的な視点から、平和の尊さについての啓発活動を推進し、平和意識の高揚を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	「平和を願う講演会」を計画通り開催し、平和意識の高揚を図ることができた。							
指標及び説明	【指標】 平和に関する講演会の実施				【説明】 「平和を願う講演会」の学校の実施率により、平和意識の高揚度を判断します。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		100	平時	平時	平時			100
		R 2 有事	100	100	100			R 8 有事
		0						
分 析	被爆体験の講演を通じて、平和の大切さ・尊さを学ぶことができている。							
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続し、内容の充実を図るとともに、講師が御高齢のため、新しい講師の発掘を行う。							

【施策の体系】 1 人権教育

【政策】 第1項 人権の尊重と権利の擁護

施 策	(2) 平和施策の推進			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価
	平和意識の高揚		学校教育課	A
学 識 経 験 者 等 意 見	「平和を願う講演会」の開催を継続され、令和6年度も計画通り開催できたことを確認しました。このように平和について考える機会を継続的につくっていくことがたいへん重要であると思います。被爆体験者の直接の言葉で語られる話は、心に響くと共に、平和について一人一人が考える機会になることと考えます。 今後は、これまで続けてきたことに加え、世界で起きている紛争や私たちの身近にあるテーマ等、様々な視点から平和について考えることのできる取組を広げてほしいと思います。また、話を聴くだけにとどまらず、自分たちで調べたり、考えたり、意見を述べあったりすることも重要であると考えます。講演会の実施率を指標に評価がなされていますが、実施したことがどのように浸透しているのかについても確認できると良いと思います。			

主 な 取 組	学習情報の提供						担当課	自己評価
							社会教育課	B
目 標	市民の学習と活動を支援する情報の収集・提供を進め、ICT機器を活用した情報発信の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民の学習と活動を支援する情報の収集・提供を進め、ICT機器を活用した情報発信の充実を図った。 インターネット等を活用した学習情報の提供 「いるま生涯学習出前講座」46件 「生涯学習ガイドブック」年2回、「いるま学びの場」年1回の発行							
指標及び説明	【指標】学びの場ホームページへのアクセス数				【説明】ホームページへのアクセス件数により、学習環境の充実度を判断する。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	件	R1 平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8 平時
		8,834	平時	平時	平時			10,500
		R2 有事	7,336	7,016	7,678			R8 有事
		4,236						5,100
分 析	インターネットを活用した学習情報の提供や、「いるま学びの場」の発行など、当初の計画通りに進めることができた。							
課 題 及 び 改 善 点	情報機器を使用しない方への紙媒体での情報発信を維持しつつ、多様な市民のニーズに応えられるよう、様々な媒体を通しての情報発信を行っていく。							

主 な 取 組	学習機会の充実	担当課	自己評価					
		社会教育課	B					
目 標	市民活動団体や大学・企業等との連携・協働を図り、市民が学んだことをまちづくりに生かせる学習機会を提供する。また、障害者が地域の一人として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた学習機会を提供する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民活動団体や大学・企業等との連携・協働を図り、市民が学んだことをまちづくりにいかせる学習機会を提供した。 まちの先生講座受講者 延べ584人 生涯学習フェスティバル会場参加者 延べ1,960人、オンライン視聴者 延べ445人 文芸入間投稿者 延べ120人 いるま生涯学習出前講座受講者 925人 子ども大学さやま・いるま修了生 29人 子ども音楽大学いるま修了生 15人							
指標及び説明	【指標】生涯学習事業への参加者数		【説明】事業への参加者数により、学習環境の充実度を判断する。					
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値	目標値				
	人	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		6,308	平時	平時	平時			7,000
		R2有事	3,044	3,690	4,078			R8有事
		864						1,000
分 析	令和5年度と比較して、生涯学習事業の参加者数は増加しており、特に、生涯学習フェスティバルは、多くの来場者で賑わった。							
課 題 及 び 改 善 点	まちづくりに参加する市民の高齢化が進み、引き継いでいく後継者の育成が課題である。							

施 策		(1) 学習環境の整備			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価	総合評価
	学習情報の提供		社会教育課	B	B
	学習機会の充実		社会教育課	B	
学 識 経 験 者 等 意 見	「学習情報の提供」に関しては、ホームページへのアクセス数が過去2年間と比較して上昇傾向にあり、着実に ICT 機器（インターネット）による効果的な情報発信がなされているものと考えます。また、継続して紙媒体での情報発信も維持しながら情報弱者となりうる層の高齢者などへの配慮もされています。「いるまなびと」を拝見いたしましたが、探したい情報にアクセスできるように工夫がされていました。				
	「学習機会の充実」に関しても着実に参加者数が増加傾向にあり評価されます。「いるまなびと」で生涯学習フェスティバルの参加団体一覧や記録映像を拝見しましたが、子どもから高齢者まで異世代の市民が参加している様子がうかがわれ、生涯学習の取り組みとして充実していると評価いたします。後継者育成の課題に関しては改善できるよう努力していただきたいと思います。ひとつ気になりました点が、目標にある「障害者が地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた学習機会を提供する」について、その取組や成果については確認ができませんでした。次年度はこの目標の到達度がわかるよう工夫していただくことを希望します。				

主 な 取 組	学習成果活用の奨励						担当課	自己評価
							社会教育課	B
目 標	市民が学習した成果を発表する事業の充実を図り、市民の学習活動を奨励する。 市民が習得した知識、経験、技術等を地域へ生かす市民講師登録制度の充実を図る。また、登録した市民講師が実施する講座の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民が学習した成果を発表する事業の充実を図り、市民の学習活動を奨励した。 また、市民が習得した知識、経験、技術等を地域へ生かす市民講師登録制度の実施及び登録した市民講師の充実を図った。 まちの先生（市民講師） 49人 まちの先生講座 26講座（受講者数延べ584人）							
指標及び説明	【指標】 市民講師数、事業の実施数				【説明】 生涯学習に関する市民講師の人数及び市民講師が実施する講座の数により、市民の学習成果活用の推進度を判断する。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人 講座	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		61	平時	平時	平時			65
		31						35
		R 2 有事	55	47	49			R 8 有事
		61	9	27	26			—
22						25		
分 析	「まちの先生」登録は年間を通して一定の新規申し込みがあり、公民館や学校などからの要請による登録者の活躍の場も増得ている。また、「まちの先生」を活用した市民講座である「まちの先生講座」については、講座数は微減したものの延べ受講者数は年々増加している。							
課 題 及 び 改 善 点	市民講師が高齢化により減少している。「まちの先生講座」の受講生などから市民講師を発掘していくことが課題である。							

【施策の体系】 2 生涯学習

【政策】 第1項 生涯学習の推進

【施策】 (2) 学習成果の活用

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 1 3

主 な 取 組	市民との協働						担当課	自己評価
							社会教育課	A
目 標	地域で仲間と学ぶ市民を「いるまなびと」として位置づけ、「いるまなびと」が市民に定着し、より多くの市民が「いるまなびと」として学びを推進し、学んだことを暮らしや地域に生かし、市民との協働で各種事業の計画・立案・運営を進める。							
取 組 状 況 及 び 成 果	地域で仲間と学ぶ市民を「いるまなびと」として位置づけ、「いるまなびと」が市民に定着し、より多くの市民が「いるまなびと」として学びを推進し、学んだことを暮らしや地域に生かし、市民との協働で各種事業の計画・立案・運営を進めた。 文芸入間第47号の発刊 第29回いるま生涯学習フェスティバルの開催							
指標及び説明	【指標】 市民活動団体等の協働による事業数				【説明】 連携協力による事業数により、市民との協働の推進度を判断します。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	事業	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		2	平時	平時	平時			2
		R 2 有事						R 8 有事
		2	2	2	2			—
分 析	生涯学習フェスティバルでは、通常及びオンライン開催を実施し多くの来場者で賑わった。文芸入間は、編集委員5人と少数ながら、紙面構成を見直し効率化を図り第47号を発刊した。							
課 題 及 び 改 善 点	生涯学習をすすめる市民の会委員、文芸入間編集委員については、ともに幅広い年齢層の会員拡充など、会員数の維持確保が課題である。市民の会委員については、まちの先生やまちの先生講座受講生からの人材獲得を進めている。							

【施策の体系】 2 生涯学習

【政策】 第1項 生涯学習の推進

施 策	(2) 学習成果の活用			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価
	学習成果活用の奨励		社会教育課	B
	市民との協働		社会教育課	A
学 識 経 験 者 意 見 等	「学習成果の活用の奨励」に関しては、「まちの先生」登録状況も微増して、市民の主体性を励ますよう支援してきた担当課の取組の成果として評価いたします。今後も登録された市民講師が活躍できる場の確保も含めて市民による市民のための学びあいが活性化していくよう人材の発掘や維持を期待します。「市民との協働」に関しても、「いるまなびと」の定着・発展を図るために、今後とも生涯学習をすすめる市民の会ならびに文芸入間編集委員などの人材確保の課題に取り組みながら、充実した協働ができることを期待します。			

主 な 取 組	学校経営の充実						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	児童・生徒に対する教育的支援の充実を図り、変化の激しい社会を生き抜くための力を育む							
取 組 状 況 及 び 成 果	①教職員の資質向上（学校指導訪問の実施、各種研修会の実施、各学校の課題研究への支援） ②コミュニティ・スクールの充実 各研修会や学校指導訪問を通して、それぞれの経験年数に応じた指導や支援、研修会を実施したことにより、教職員一人一人が自己を見つめ直し、更に資質を高めようとするきっかけをつくることができた。							
指標及び説明	【指標】 コミュニティ・スクールの導入率				【説明】 小中学校区へのコミュニティ・スクールの設置状況により、導入率を判断。			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値					目標値
		R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
								100
		R 2 有事	100	100	100			R 8 有事
								100
分 析	全中学校区でコミュニティ・スクールを実施し、昨年度よりも更に学校区の特色を活かした運営を行うことができた。							
課 題 及 び 改 善 点	コミュニティ・スクールの導入から2年が経ち、それぞれの地区によって課題があきらかになってきた。運営の仕方も含め、委員の人材選定、地域の特色を十分に活用したものにしていきたい。							

主 な 取 組	I C T機器を活用した支援						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	児童・生徒に対する教育的支援の充実を図り、変化の激しい社会を生き抜くための力を育みます。							
取 組 状 況 及 び 成 果	①タブレット授業活用研究委員会の実施（3回） ②ミライシード活用研修の実施（2回） ③ICT活用研修会（1回） ④学校指導訪問や校内研修での I C T 機器の使用方法的指導・評価の実施							
指標及び説明	【指標】				【説明】			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値					目標値
		R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
		R 2 有事	-	-	-			R 8 有事
分 析	学習支援ソフト「ミライシード」が大幅にアップデートしたことを受けて、その周知および研修、研究を計画通り実施することができた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する基盤として、G I G Aスクール構想を推進した。							
課 題 及 び 改 善 点	今後は、本ソフトにおいて教職員が作成した自作教材の共有を推進していく。教材や各種テンプレートが充実することで活用率の向上を目指す。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P15

主 な 取 組	生徒指導・教育相談の充実							担当課	自己評価
								学校教育課	A
目 標	事業を継続し、内容の工夫改善を図りながらいじめ解消率100%を目指していく。								
取 組 状 況 及 び 成 果	①生徒指導訪問や巡回訪問を各学期に最低1回以上実施し、各学校の児童生徒の状況、学校の対応状況を把握した。 ②スクールソーシャルワーカーと連携を図り、支援が必要な子どもの状況を把握した。 事例に合わせてソーシャルワーカーと情報共有を図り、協議した。 ③福祉、介護等の関係機関との連携を強化し、年間通して50回以上のケース会議・支援会議を実施した。また、様々な関係機関との連携を図った。								
指標及び説明	【指標】いじめ解消率					【説明】生徒指導調査の分析により、いじめの解消率を判断。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値	
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時	
		68	平時	平時	平時			100	
		R2有事	43	50	58			R8有事	
		72						—	
分 析	福祉・医療等の関係機関との連携が図られ、充実した児童支援を行うことができた。								
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続し、関係機関との連携を密に行う。特に学校と関係機関との連携が強化できるよう支援する。								

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P15

主 な 取 組	子ども未来室事業の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	B
目 標	入間市に育つすべての子どもたちの豊かな育ちと学びを実現し、一人一人の自立を総合的に支援する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	児童発達支援センター「ういず」と連携を図るための情報交換を定期的に行った。 こども支援課主催のCLM研修に参加するとともに学校管理職の参加を促し理解を促進した。 教育・福祉・保健の連携を一層強化するための定例会（月1）・研修会（2回・各50名以上の参加）を開催し、各分野の参加者との連携を深化した。							
指標及び説明	【指標】設定困難				【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
		R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
			平時	平時	平時			
		R2有事						R8有事
分 析	保幼小の連携、他課との連携が進み、支援がつながることが増えた。							
課 題 及 び 改 善 点	関係諸機関との連携を深めると共に、それぞれの事業の整理をしていく。 多業種・多職種との連携も継続していく。							

主 な 取 組	教材・図書等の充実						担当課	自己評価
							教育総務課	B
目 標	学習指導要領に対応する教材教具を整備し、良好な教育環境の確保とよりわかりやすい授業を展開するための教育内容の充実に向けて、学校管理備品、教育教材備品、学校図書館図書等を計画的に購入します。							
取 組 状 況 及 び 成 果	令和 6 年度も文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率向上を目標とし、児童生徒が良書に親しむ環境の整備と学校図書の充実のため、引き続き予算措置を図るとともに寄附金を活用し児童生徒用の図書購入費に充てることで更なる学校図書室の充実を図りました。また、以前から市立図書館が実施している移動図書館（希望のあった学校に週に1回訪問）は、子供たちがより多くの良書に触れる機会を作り読書活動の充実を図っています。							
指標及び説明	【指標】 図書館蔵書充足率					【説明】 文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率(平成 5 年度に定めた公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準)		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		85.90	平時	平時	平時			
		R 2 有事	85.52	86.62	86.52			R 8 有事
		86.36						
分 析	経年劣化等により、3,494 冊（小学校 1,784 冊、中学校 1,710 冊）書籍の廃棄がありました。合計 2,067 冊（購入 1,256 冊及び寄贈 811 冊）の購入等を行いました。結果として充足率は下がりました。							
課 題 及 び 改 善 点	大変厳しい財政状況は変わりませんが、引き続き学校図書館図書充足率 100%を目標として予算措置を進めるとともに、公共図書館との連携についても、より一層の充実が図れるよう検討します。また、児童生徒が一人1台使用しているタブレット端末には、調べ学習や発表等の主体的且つ協同的な学びに活用できる様々なツールが標準装備されていることから、図書蔵書の充実と共に、必要に応じたツールや媒体を子どもたちが選択できる教育環境の整備を目指します。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第1項 学校教育の充実

【施策】 (1) 学校教育体制及び学習環境の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 1 6

主 な 取 組	子育て家庭への経済的支援						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	内容の充実を図り、必要な家庭への援助を確実に行う。							
取 組 状 況 及 び 成 果	①就学援助制度による学校諸経費、学用品費、給食費、校外活動・修学旅行費等の支援充実→申請に基づき、審査のうえ実施した。 ②小・中学校入学時の学用品費の入学前支給→12月と3月に実施した。 ③新入生保護者会の活用や市長部局（子ども支援部、生活支援課）との連携による就学援助制度の確実な周知→16校及び各課と連携して実施を行った。							
指標及び説明	【指標】 設定困難				【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	-	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			平時	平時	平時			-
		R 2 有事	-	-	-			R 8 有事
								-
分 析	計画通りの支援実施により、義務教育の円滑な実施に資することができている。							
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続し、内容の充実を図る。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第1項 学校教育の充実

施 策	(1) 学校教育体制及び学習環境の充実			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学校経営の充実	学校教育課	A	A
	I C T機器を活用した支援	学校教育課	A	
	生徒指導・教育相談の充実	学校教育課	A	
	子ども未来室事業の推進	学校教育課	B	
	教材・図書等の充実	教育総務課	B	
	子育て家庭への経済的支援	学校教育課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	主な取組として、学校経営の充実、I C T機器を活用した支援、生徒指導・教育相談の充実、子ども未来室事業の推進、教材・図書等の充実、子育て家庭への経済的支援について、おおむね適切に実施されたものと思います。 とくに「コミュニティ・スクール」は、全中学校区での実施2年が経過し、各学校区の特色を活かした運営が進められていることはたいへん素晴らしいことです。今後も、この「コミュニティ・スクール」の運営を通じて、入間市が掲げる「地域との連携と生きる力の育成」を目指した取組を着実に進めていかれることを大いに期待します。 子育て家庭への経済的支援として、就学援助制度が適切に進められていることも評価できます。経済的な支援を必要とする家庭において、この制度が適切に機能することがとても重要であると思います。申請に基づいて手続きが進められる制度ではあると思いますが、制度の確実な周知とともに、制度は知っているにも関わらず申請に至らないケースはないか等、必要とする家庭への援助が確実に行えるよう個別の対応を丁寧に進めていくような工夫も必要と思います。 学校図書の充実のため、引き続きの予算措置が図られ、寄付金も活用して、図書の充実が図られたことについても評価できます。子どもたちが良い本に出会うことは、子どもたちの想像性、			

	好奇心、思考力等を育む上で重要です。図書館所蔵充足率 100%を目指して、引き続き図書の充実が図られることを期待します。
--	--

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P16

主 な 取 組	学力向上の充実						担当課	自己評価
							学校教育課	B
目 標	子どもたち一人一人について、確かな学力の習得を目指す。							
取 組 状 況 及 び 成 果	学力向上のための訪問を行い、各小・中学校の授業の様子を確認するとともに、学校指導訪問において具体的な指導を行った。その結果、各小・中学校で学び合いの授業を推進できた。							
指標及び説明	【指標】家庭学習の実施率				【説明】確かな学力の習得につながる家庭学習			
指 標 の 推 移	単位	現状値		実 績 値				目標値
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		78.3	平時	平時	平時			85.0
		R 2 有事	64.4	62.5	57.4			R 8 有事
		81.7						—
分 析	令和6年度の全国学力調査質問紙の内容が変化したため、過去の指標と直接的な比較はできないが、平日の家庭学習は全国平均と同等以上の結果となっている。							
課 題 及 び 改 善 点	家庭学習の実施率を向上させるため、児童・生徒が主体的に学ぶ授業を行うなど、学習への意欲を向上させる手立てについて今後も研究し、教職員への研修・指導を行いたい。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第1項 学校教育の充実

【施策】(2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P17

主 な 取 組	豊かな心を育む教育の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	B
目 標	子どもたち一人ひとりについて、豊かな心の醸成を目指す。							
取 組 状 況 及 び 成 果	職場体験はすべての中学校で実施できた。狭山茶とふれあう教育については盆点前授業が中学校11校で実施できた。博物館学習は、小学校3年生、6年生（オンライン授業）中学校1年生すべて実施できた。							
指標及び説明	【指標】ふるさと入間への関心度				【説明】国や県の学習状況調査により、関心度の高まりを調査する。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		61.9	平時	平時	平時			
		R2有事	52.4	63.4	58.4			R8有事
分 析	ふるさと入間を愛する心を育むことを通じて、豊かな人間性の育成につながっている。							
課 題 及 び 改 善 点	盆点前授業は、今年度実技が7時間から5時間となった。指導者と学校担当教職員との打ち合わせを綿密に行う必要がある。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第1項 学校教育の充実

【施策】 (2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P17

主 な 取 組	健康・安全教育及び食育の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	B
目 標	交通安全並びに防災教育及び食に関する指導や推奨を行う。							
取 組 状 況 及 び 成 果	①小4 対象の自転車免許取得の安全教室を全校で実施した。 ②全小中学校で計画的に防災訓練を実施した。 ③「早寝、早起き、朝ごはんの推奨」「食に関する指導」を全小中学校で実施した。							
指標及び説明	【指標】				【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
		R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			平時	平時	平時			
		R 2 有事	-	-	-			R 8 有事
分 析	計画していた事業内容はほぼ実施することができた。継続することで学校も児童生徒にも活動や内容が浸透している。							
課 題 及 び 改 善 点	各学校の取組を支援することができるよう事業を継続し、内容のさらなる充実を図る。							

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第1項 学校教育の充実

【施策】 (2) 学校教育内容の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P17

主 な 取 組	体力向上の充実							担当課	自己評価
								学校教育課	B
目 標	①体育授業、体育的活動量の量的確保と指導内容の充実 ②体力向上を目指した教育活動の工夫改善と学校への支援の充実								
取 組 状 況 及 び 成 果	事業を継続し、内容の充実を図った。								
指標及び説明	【指標】					【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値	
	-	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時	
		R 2 有事	-	-	-			R 8 有事	
分 析	ICT 機器の活用や学び合いによる授業展開など学校現場では多くの工夫された実践が行われており、児童生徒の体力向上につながっている。								
課 題 及 び 改 善 点	引き続き児童生徒の体力向上を目指し、新体力テストの分析を活かして事業の充実を図る。								

施 策		(2) 学校教育内容の充実		
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学力向上の充実	学校教育課	B	B
	豊かな心を育む教育の推進	学校教育課	B	
	健康・安全教育及び食育の推進	学校教育課	B	
	体力向上の充実	学校教育課	B	
学 識 経 験 者 等 意 見	主な取組である、学力向上の充実、豊かな心を育む教育の推進、健康・安全教育及び食育の推進、体力向上の充実について、自己評価は全てBでした。おおむね適切に実施されたものと思いますが、さらなる充実の余地も残されている評価でもあると拝察します。 学力の向上、体力の向上はともに子どもたちの育ちにおいて重要ですが、いずれもその充実のための取組が実施できたものと思います。実施においては教師の工夫ある授業展開や子どもたちへの指導が重要と考えます。今後は、教師がより良い授業を展開していくための研修の機会や教師の支援の充実を進めていくことにも期待したいと思います。			

主 な 取 組	子ども未来室事業の推進						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	一人一人のより良い成長を支援するため、他課と連携し、事業の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	全ての未就学施設に巡回支援を実施できた。 小中学校における特別支援学級や通級指導教室に関わる教員の指導力向上が図れた。 他課・他機関・他職種との連携が適切に図れ、相談内容や支援方法の共有ができた。							
指標及び説明	【指標】				【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
		R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			平時	平時	平時			
		R 2 有事	-	-	-			R 8 有事
分 析	巡回支援によるアドバイスにより、幼児が環境に適応できることが増え、小学校1年生が落ち着いてスタートできている。							
課 題 及 び 改 善 点	不登校の未然防止策としても、発達支援の継続の意味でも、幼児で充実している支援を見 童・生徒に拡大し、作業療法士・臨床心理士（WISC のアフターフォローも含む）による小 中学校への巡回を検討する必要性がある。							

主 な 取 組	幼児の通級指導教室を通じた支援						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	人間形成において、非常に重要な役割を持つ幼児期の教育の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	①幼児の通級指導教室「茶おちゃお」においての活動。 ②「茶おちゃお」に在籍する幼児の保護者を対象としたペアレントサポート講座の実施。 ③「茶おちゃお」在籍の幼児が入学を予定している小学校との情報交換会の実施。							
指標及び説明	【指標】小学校との情報交換会の実施率				【説明】小学校との情報交換会の実施率			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			平時	平時	平時			1 0 0
		R 2 有事	100	100	100			R 8 有事
分 析	保育所、小学校、関係各課との連携や巡回を通じて、きめ細かな対応ができている。 また、在籍する幼児の保護者へのサポートも進めている。							
課 題 及 び 改 善 点	事業を継続していく中で、親へのサポートも課題として検討していく必要がある。							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第2項 幼児教育の充実

【施策】(1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P18

主 な 取 組	保護者への情報提供と支援						担当課	自己評価
							学校教育課	B
目 標	保護者の方へ安心して子育てができるような情報提供や支援をする。							
取 組 状 況 及 び 成 果	親の学習講座は年間32回実施することができ、参加型の講座により、保護者の方の子育てに対する不安を軽減できた。 ペアレントサポート講座を行うことで、保護者の方のニーズにあった情報を提供できた。							
指標及び説明	【指標】 設定困難				【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
		R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
			平時	平時	平時			
		R2有事	-	-	-			R8有事
分 析	こども支援課と連携することで、多くの方々に周知し参加してもらうことができた。 保護者の方の子育てに対するサポート、不安軽減につながっている。							
課 題 及 び 改 善 点	保護者のニーズに合わせた内容の検討 ペアレントサポート講座を担える人材の発掘や育成							

【施策の体系】3 幼児・学校教育

【政策】第2項 幼児教育の充実

【施策】(1) 幼児教育の環境整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P18

主 な 取 組	保幼小中連携・接続研修会の実施						担当課	自己評価
							学校教育課	A
目 標	人間形成において、非常に重要な役割を持つ幼児期の教育の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	保育士・教諭等を対象とする発達障害への適切な対応と支援方法を学ぶ研修会の実施。							
指標及び説明	【指標】 研修の実施率				【説明】 研修の実施率			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			平時	平時	平時			1 0 0
		R 2 有事	100	100	100			R 8 有事
分 析	保育士・教諭等の発達障害への適切な対応と支援方法への理解につながった。 保幼小中連携に必要な保育士・教諭等の交流の一助となった。							
課 題 及 び 改 善 点	保育士・教諭等の交流という視点で考えた際、参集型の研修についても検討が必要である。							

主 な 取 組	幼稚園就園世帯への支援						担当課	自己評価
							保育幼稚園課	A
目 標	幼児教育にかかる経済的負担の軽減を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	幼児教育・保育の無償化事業による入園料・保育料の補助、給食費のうち副食費分に対する補助等を実施し、幼児教育にかかる経済的負担の軽減を図った。保育料等は毎月各園からの請求により補助(支払い)実施している。副食費補助は年度末一括補助のため、令和6年度分は申請受付を行い、これから集計、支払い処理となる。							
指標及び説明	【指標】 設定困難					【説明】		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
		R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			平時	平時	平時			
		R 2 有事	—	—	—			R 8 有事
分 析	対象者からの申請による補助のため毎年度申請数等が異なり、目標件数・金額等として設定はできないが、申請受付分に対する補助は実施できている。							
課 題 及 び 改 善 点	対象は毎年一定ではないため、引き続き制度の周知を図っていく。							

施 策	(1) 幼児教育の環境整備			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	子ども未来室事業の推進	学校教育課	A	A
	幼児の通級指導を通じた支援	学校教育課	A	
	保護者への情報提供と支援	学校教育課	B	
	保幼小中連携・接続研修会の実施	学校教育課	A	
	幼稚園就園世帯への支援	保育幼稚園課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	子ども未来室の推進、幼児の通級指導を通じた支援、保護者への情報提供、保幼小中連携・接続研修会の実施、幼稚園就園世帯への支援の5つの取組が適切に実施されたと思います。 幼児教育は生きる力の基礎を培う上で、教育の中でも重要な位置づけであると考えます。とくに、未就学施設への巡回支援の実施、幼児の通級指導室での様々な取組に、力を入れ障害のある幼児への教育・支援が充実していた点についてたいへん評価できます。今後も引き続きの充実した取組に期待しています。 保幼小中の連携・接続については、発達障害への適切な対応と支援を学ぶ研修会が実施され、学びを深めただけでなく、保育士・教諭等の交流に繋がったことも良かったと思います。保幼小に関しては、接続期プログラム等、交流を越えて、協働して取組んでいくことも今後期待したいところです。			

主 な 取 組	校舎・屋内運動場の整備						担当課	自己評価
							教育総務課	A
目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再整備に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進めます。							
取 組 状 況 及 び 成 果	○小中学校施設における維持管理 ○小中学校施設における整備事業の計画的な推進 (1)藤沢小学校校舎便所改修工事 (2)金子小学校校舎便所改修工事 (3)藤沢南小学校校舎便所改修工事 (4)小中学校校舎職員男子便所改修工事 (5)藤沢南小学校屋内運動場アリーナ照明器具 LED 化工事 (6)東金子中学校校舎外壁等改修工事 (7)上藤沢中学校屋内運動場便所改修等工事 (8)黒須小学校外7校防犯カメラ設置工事 ほか							
指標及び説明	【指標】年度当初に計画した事業数				【説明】維持管理及び施設整備にかかる事業			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	事業	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		1 5 1	平時	平時	平時			1 5 0
		R 2 有事	1 5 6	1 5 5	1 3 8			R 8 有事
		1 5 2						—
分 析	計画した施設整備にかかる事業は、概ね滞りなく改修工事等を実施することができた。学校施設の維持管理にかかる事業についても、概ね目標どおり実施した。また、各学校で課題となっている樹木についても、伐採や剪定等適切に行うことができた。これにより、子ども達の安心・安全な学習環境を整備することができた。							
課 題 及 び 改 善 点	継続的な事業であるため、課題についてはこれまでと変わらない。令和3年度から35人学級編制が開始されたことや、バリアフリー法の改正により、これまでの学校施設整備に加え、新たな課題もあるため、公共施設マネジメント事業計画や、教育委員会の『入間市立小・中学校の適正化に関する基本方針』に基づき、統廃合や大規模改修、長寿命化、改築工事等を計画的に進めていかなければならない。							

施 策	(1) 学校施設の充実・最適化			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価
	校舎・屋内運動場の整備		教育総務課	A
学 識 経 験 者 等 意 見	子どもたちが学ぶ場である施設が安全で過ごしやすい場であることが重要です。計画した施設整備について、全て滞りなく実施できたことを評価します。学校施設整備については、今後も引き続き計画的に進めてほしいと思います。			

【施策の体系】 3 幼児・学校教育

【政策】 第3項 学校施設の整備

【施策】 (2) 学校給食施設・設備の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 20

主 な 取 組	学校給食センター施設・設備の整備						担当課	自己評価
							学校給食課	A
目 標	学校給食にかかる施設や設備の改修、改善等を適切に行い、安心・安全でおいしい給食の安定的な提供を確保します。							
取組状況及び成果	○老朽化した施設・設備の修繕等を実施することより、安心・安全でおいしい給食の提供を確保できた。 ○学校給食センター更新に伴う建設用地について、事業用定期借地権設定契約締結により確保した。 ○学校給食センター更新に伴う基本・実施設計業務が計画通りに5月末で完了した。 ○令和8年2月27日を工期とし、学校給食センター建設工事を分離発注（建築・電気設備・機械設備）にて発注、令和6年9月25日に契約を締結し、計画通りに工事に着手した。（令和6・7年度の継続事業）							
指標及び説明	【指標】学校給食センター更新進捗率				指標及び説明			
指 標 の 推 移	単位	指 標 の 推 移		単位				指 標 の 推 移
	%	R 1 平時	%	R 5	%	R 7	%	R 8 平時
		5	平時	平時	平時			100
		R 2 有事	25	45	65			R 8 有事
		10						100
分 析	基本・実施設計を遅滞なく終了することができ、また、地権者と良好な関係を築きつつ、順調に交渉を進め用地の確保ができたため、工事の発注事務を予定通り進めることができたと考えている。令和8年8月の運用開始に向けて、順調に前進している。							
課 題 及 び 改 善 点	・運用開始に向けた職員体制の検討及び試作、研修のスケジュール調整 ・新たな施設の運用開始後、速やかに既存施設の解体工事を発注できるよう、令和7年度に実施する解体設計を遅滞なく進めることが必要							

主 な 取 組	自校給食施設・設備の整備						担当課	自己評価
							学校給食課	A
目 標	学校給食にかかる施設や設備の改修、改善等を適切に行い、安心・安全でおいしい給食の安定的な提供を確保します。							
取組状況及び成果	○全ての小学校にスチームコンベクションオープンの設置（16校/16校）が完了したことで、全施設で調理環境が改善し、様々な献立に対応することが可能となった。 ○新たに小学校2校に対し、真空冷却機を設置（9校/16校）したことで、夏場の衛生管理の改善に繋げることができた。							
指標及び説明	【指標】スチームコンベクションオープン及び真空冷却機設置率					指標及び説明		
指 標 の 推 移	単位	指 標 の 推 移		単位				指 標 の 推 移
	%	R 1 平時	%	R 5	%	R 7	%	R 8 平時
		13	平時	平時	平時			90
		R 2 有事	50	65	78			R 8 有事
		22						90
分 析	・ スチームコンベクションオープンが全施設に配置されたことにより、夏場の調理環境の向上及び、献立の充実が図られたと考えている。 ・ 真空冷却機の導入により夏場の衛生管理の向上及び、サラダや和え物など急速冷却によって安全な温度帯による提供ができるようになっている。暑さで食欲が落ちる中で冷えた状態のメニューを喫食することができるのは食欲増進にも繋がっていると考えている。							
課 題 及 び 改 善 点	・ スチームコンベクションオープンを最初に導入した施設では10年以上経過することから、経年劣化による動作不良等、不具合が出てきているため、令和7年度に1校入れ替えを予定している。今後も計画的な入れ替えの検討を進めていく。 ・ 真空冷却機については設置校と未設置校の格差を無くすため、引き続き計画的に1年につき2校程度の設置を進める必要がある。							

施 策	(2) 学校給食施設・設備の充実			
施 策 評 価	主な取組		担当課	自己評価
	学校給食センター施設・設備の整備		学校給食課	A
	自校給食施設・設備の整備		学校給食課	A
学 識 経 験 者 等 意 見	子どもの生活・育ちにとって「食」の重要性は言うまでもありません。子どもたちに安心・安全でおいしい給食を提供するための学校給食に係る施設や設備の改修、改善が計画通りに進められたことを確認しました。 すべての小学校にスチームコンベクションオープンの設置が完了し、調理環境が整ったことで献立の充実が図られたことはたいへん評価できます。しかしながら、今後は、経年劣化した機器の入れ替えが課題となっているので、引き続き設備の充実について取組を進めてほしいと思います。			

主 な 取 組	学習の機会提供の充実						担当課	自己評価
							博物館	A
目 標	常設展示において研究成果を提供するほか、市民ニーズを考慮した特別展・企画展等を実施し、多様な形で市民の学習活動を支援する。また、調査研究の成果を生かし、幅広い市民のニーズに対応した講座を行う。さらに展示ガイドアプリなどのICT機器を活用した情報提供の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	5年振りに開催したアリットフェスタ特別展や、食文化ミュージアムとしての特色を打ち出したアリットお茶大学、開館30周年を記念する様々な事業の実施により学習機会の充実につなげることができた。							
指標及び説明	【指標】博物館観覧者数				【説明】学習機会の充実度を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人	R 1 平時	R 4・	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		23,027	平時	平時	平時			30,000
		R 2 有事	20,369	23,989	30,310			R 8 有事
								10,000
分 析	令和6年度は、特別展をはじめ開館30周年を記念した事業を実施することで観覧者の増加につながったが、今後も市民へ博物館資料を活用した質の高い学習機会を提供していくためには、継続的に資料の調査研究等を行っていく必要がある。							
課 題 及 び 改 善 点	学習機会の提供に向けての調査研究に要する時間を確保するため、委託が可能な業務については事業者へ委託するなどの対応が必要である。							

主 な 取 組	学習の機会提供の充実	担当課	自己評価					
		図書館	B					
目 標	魅力ある図書館づくりを目指して、地域情報拠点機能の充実を図りながら、各世代の利用促進事業を充実していく。また、電子図書館サービスについて、来館の少ない10代後半から40代の子育て世代を中心とした電子書籍の収集に努める。							
取 組 状 況 及 び 成 果	【地域情報拠点機能の充実について】 ○入館者数 554,732人（前年度比13,065人） ○移動図書館車の運行 ・定期的な巡回（25か所） ・青少年活動センターのイベントに参加（2回） ・貸出冊数 12,804点、新規利用者登録 28人 ○宮寺配本所の運営 ・おはなし会の実施 2回 ・蔵書に入れ替え ○テーマ本の展示 ・関係各課とも連携を図りながら、「パープルリボン運動関連図書」「人生会議関連図書」等77種類の展示 【利用促進事業について】 ・本館「本の福袋」「夏休み1日図書館員」「おすすめ児童書3冊セット貸出」等の実施 ・分館「ビブリオバトル」「俳句ポスターの設置」等の実施 【電子図書館サービスについて】 ・小説や実用書を中心とした蔵書の追加 購入冊数 616冊 ・テーマ本の特集 29種類							
指標及び説明	【指標】入館者数		【説明】図書館入館者数により、学習機会提供の充実度を判断する。					
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		638,659	平時	平時	平時			720,000
		R2有事	500,396	541,667	554,732			R8有事
		341,039						430,000
分 析	入館者について、6月～8月まで金子分館が金子地区センター改修工事のため休館していたものの、各館の閲覧席利用者やおはなし会参加者が増加したため、また、夏季の「まちのクールオアシス」に協力しているため入館者が多くなり、全体的には増加した。							
課 題 及 び 改 善 点	入館者数について、さらなる増加に努める。また、電子図書館について、10代後半の利用が少ないことから、周知し利用増に努める。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (1) 社会教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 2

主 な 取 組	学習の機会提供の充実						担当課	自己評価
							公民館	A
目 標	住民の暮らしを豊かにし、地域を活性化するため、健康づくり、安心・安全な暮らし、趣味・教養の充実、少子高齢社会、情報格差の解消、環境問題、人権問題、貧困問題、伝統文化の継承等に関する教室や講座を開催する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	公民館基本計画で掲げた 10 の現代的課題を実施できた。							
指標及び説明	【指標】 公民館基本計画で掲げた 10 の現代的課題をテーマとした学習事業の実績				【説明】 10 の現代的課題をテーマとした学習事業をバランスよく実施できたか否かで判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	件	R 1 平時 8	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時 10
		R 2 有事 4	9	9	10			R 8 有事 5
分 析	公民館基本計画において「現代的課題を中心とした学習事業の企画実施」を重点施策の主な取組に位置付けたことにより事業化が進んでいる。							
課 題 及 び 改 善 点	10 の現代的課題のうち、貧困問題に関する事業実施数が、他の事業と比較して少ない。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (1) 社会教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 2

主 な 取 組	資料の収集・提供						担当課	自己評価
							博物館	A
目 標	市民や関係団体と連携しながら資料を収集整理、保存することで「もの」と「情報」の集積を図るとともに、調査研究、多様な方法により市民へ情報提供を行う。							
取 組 状 況 及 び 成 果	特別展の準備に向けて資料調査、資料整理を行うことで、その成果の一つである資料情報公開をより進めることが出来た。							
指標及び説明	【指標】 資料公開件数				【説明】 資料の収集・提供の充実度を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	件	R 1 平時 46,877	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時 53,900
		R 2 有事 47,737	52,655 暫定	54,562 暫定	66,817 暫定			R 8 有事 —
分 析	令和 6 年度は、過去の調査記録を整理することで公開件数が増加したが、博物館資料を継続的に収集・提供していくためには、専門的な知識を持つ学芸員の存在が不可欠である。また、収集した資料の情報を、効果的に市民へ発信していく方法を検討していく必要がある。							
課 題 及 び 改 善 点	継続して調査し公開につなげていくため、調査に必要な学芸員の確保・育成が必要である。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (1) 社会教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 3

主 な 取 組	資料の収集・提供					担当課	自己評価	
						図書館	A	
目 標	各世代向けの図書資料の充実を図り、提供していくことで地域の課題解決を支援していく。							
取 組 状 況 及 び 成 果	【各年代向けの資料について】 ○赤ちゃん及び児童向け 令和6年5月31日～7月15日まで入間市クラウドファンディング型ふるさと納税を実施し、134万4000円の寄付から児童書720冊を購入した。 ○一般向け 購入のほか、市民からのリクエストに応えるため、相互貸借制度も活用し、提供に努めた。 購入点数 5,280冊、借用件数 4,766点							
指標及び説明	【指標】 図書館資料の所蔵点数				【説明】 図書館資料の所蔵点数により、資料の収集・提供の充実を判断する。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	点	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		579,430	平時	平時	平時			600,000
		R 2 有事	587,302	583,599	583,362			R 8 有事
		582,693						600,000
分 析	所蔵点数については、適切な選書により新刊及び寄贈資料からの受入れを行ったが、価値不要資料の除籍を行ったため、蔵書点数が若干減少した。							
課 題 及 び 改 善 点	子どもの読書推進のための児童書や調べ学習用の図書を購入するとともに、資料の適切な除籍を行い、資料保存スペースを確保する。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (1) 社会教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 3

主 な 取 組	資料の収集・提供						担当課	自己評価
							公民館	A
目 標	住民の暮らしを豊かにするための図書や地域を活性化するための資料等の充実を図り、その利用を推進する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	地域を活性化するために、9地区センターだより、掲示板やSNS等様々なメディアを通じて地域情報を発信した。							
指標及び説明	【指標】9館の地区センターだよりの発行回数					【説明】地区センターだより（ホームページへの掲載含む）で判断する。		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	回	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		156	平時	平時	平時			108
		R 2 有事	156	108	108			R 8 有事
		156						108
分 析	所管する地区センターで地域情報を発信することができた。							
課 題 及 び 改 善 点	更なる内容の充実及び情報量を高めていく。							

主 な 取 組	社会教育に関する情報の提供					担当課	自己評価	
						博物館	B	
目 標	展示事業や出版物の刊行、ホームページやSNSでの発信等、多様な方法で提供するほか、レファレンスサービスなどによる学習相談に対応する。また、様々な情報を多様なメディアを用いて発信するとともに、指定管理者と連携した魅力的な情報発信により、誘客の促進を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	博物館が運営するホームページやSNS等のほか、指定管理者による広報との連携により、博物館の展示や事業、資料の情報を効果的に発信し、市民の学習機会につながる情報提供を行うことができた。 ※令和6年度 博物館ホームページアクセス 351,594 件。X（旧ツイッター）フォロワー 946 件。フェイスブックフォロワー 501 件。西洋館フェイスブックフォロワー 911 件。指定管理者X（旧ツイッター）フォロワー 749 件、インスタグラムフォロワー 245 件、公式YouTube チャンネル登録者 150 件							
指標及び説明	【指標】ホームページアクセス件数、SNS 登録者数				【説明】情報の提供の浸透度合いを判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		356,926	平時	平時	平時			380,000
		R 2 有事	371,372	353,885	355,096			R 8 有事
		305,458						320,000
分 析	情報発信の方法は、市の公式LINEや「すぐーる」など媒体が多様化してきている。博物館の情報を様々な媒体を活用することで、届けたい方に届けられようとしていく必要がある。							
課 題 及 び 改 善 点	情報が流れ去っていくSNSとは別に、必要な情報にたどり着きやすいホームページは重要であり、次期情報システムでも、より伝わりやすく更新しやすい仕組みを検討する必要がある。							

主 な 取 組		社会教育に関する情報の提供					担当課	自己評価	
							図書館	B	
目 標		図書館資料の最新情報等を図書館ホームページ、図書館だより、広報いるま等、さまざまな方法により市民に、正確かつ迅速に伝えることに取り組む。							
取 組 状 況 及 び 成 果		【図書館ホームページについて】 ○新たに MY 本棚機能を周知するなどして、利用促進に努めた。 【図書館だよりについて】 ○図書館員が薦める一般書及び児童書の紹介を掲載し、利用促進に努めた。 【広報いるまについて】 ○毎月のカレンダーや「あつまれ！いるまぐみ」に図書館情報を掲載し、資料だけでなく、イベント情報の周知に努めた。 【図書館公式 LINE について】 ○チラシを作成し、LINE 登録の増加に努めた。 LINE 新規登録数 361 人							
指標及び説明		【指標】 図書館ホームページへのアクセス数			【説明】 図書館ホームページへのアクセス数により、社会教育に関する情報提供の浸透度合いを判断する。				
指 標 の 推 移		単位	現状値	実 績 値				目標値	
		件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			旧システムの ため不明	平時	平時	平時			80,000
			R 2 有事	17,608	501,941	499,845			R 8 有事
			旧システムの ため不明	(1 月～3 月)					80,000
分 析		図書館公式 L I N E アプリの利用数の増加に伴い、ホームページへのアクセス数が令和 5 年度より若干減少した。							
課 題 及 び 改 善 点		図書館ホームページについて、最新情報を掲載し、利用者に様々な情報を周知していくことでアクセス数を増加させる。また、図書館公式 L I N E アプリの周知にも努める。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (1) 社会教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 3

主 な 取 組	社会教育に関する情報の提供						担当課	自己評価
							公民館	A
目 標	講座・イベント情報及びサークルや地域活動団体に関する情報を地区センターだより、SNS、掲示板等、さまざまな方法により市民に提供する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	地区センター（公民館）だより、掲示板やSNS等、様々なメディアを通じて学習情報を発信した。							
指標及び説明	【指標】 ホームページへのアクセス件数					【説明】 社会教育に関する情報の情報提供の浸透度合いを判断		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		583,754	平時	平時	平時			632,000
		R 2 有事	562,671	615,790	670,467			R 8 有事
		511,794						592,000
分 析	ホームページへのアクセス件数は令和5年度比で約8%増加していることから、社会教育に関する情報の取得においても電子化が進んでいる傾向が伺える。							
課 題 及 び 改 善 点	紙媒体での情報発信とのバランス及びSNS等を活用した周知方法を見直す必要がある。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (1) 社会教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 3

主 な 取 組	社会教育に関する情報の提供						担当課	自己評価
							青少年活動センター	A
目 標	講座・イベント情報、施設の自然情報等について、小中学校等へのチラシやポスターの配布、SNS等で、市民に提供していきます。							
取 組 状 況 及 び 成 果	SNS及び市公式ホームページの更新頻度を上げた。最新の情報を提供することができた。							
指標及び説明	【指標】年間来所者数					【説明】利用者の変化をPR効果と捉える		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		25,490	平時	平時	平時			38,000
		R 2 有事	16,000	21,176	25,248			R 8 有事
		7,625						9,000
分 析	事業情報を市公式ホームページに掲載、市公式SNSや児童・生徒へタブレットに配信及び、青少年活動センターSNSで参加者募集、事業報告、自然情報を配信するなど、PRに努めたことにより、利用者数が4,072人増加した。(前年度比19.2%増)							
課 題 及 び 改 善 点	小中学校生徒に情報提供するための新たな手法を調整・検討し、効果的な情報発信に取り組む。							

施 策		(1) 社会教育事業の充実		
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	学習の機会提供の充実	博物館	A	A
		図書館	B	
		公民館	A	
	資料の収集・提供	博物館	A	
		図書館	A	
		公民館	A	
	社会教育に関する情報の提供	博物館	B	
		図書館	B	
		公民館	A	
青少年活動センター		A		
学 識 経 験 者 等 意 見	「学習の機会の提供」に関して、まず、博物館においては、特色ある特別展や企画展、開館 30 周年記念事業などの実施によって観覧者数が令和元年度の指標を大幅に上回っています。こうした企画運営の努力の結果がこの観覧者数に表れており大変喜ばしいことと評価いたします。市民のニーズに応えた取組には、学芸員の調査研究成果の裏付けがあつてのこととであります。課題にあげられておりますように、学芸員がその専門性を発揮するためにも調査研究の時間を確保され、次年度ではそれがどのように改善できたかがわかるよう工夫していただくことを希望します。 図書館においては、入館者数が増加傾向であり、本館、分館の取組に加えて、引き続き移動図書館車の運行や電子図書館サービスなど、あらゆる世代の市民が本を手にとる機会を確保する努力がみられ評価いたします。とりわけ電子図書館については、新着、貸出ランキングや特集など紹介されている本を手にとってみたいと思えるような工夫がされています。課題にありました電子図書館の 10 代後半の利用者が少ない点については、利用者カードの発行を含めて申込手続きを来館しなくてもできるアウトリーチの方法など検討の余地があるように思います。読書が学校の授業以外で減ってしまうこの若い世代の読書量改善のための工夫を引き続きしていただくことを希望します。 公民館においては、公民館基本計画で掲げた現代的課題 10 の現代的課題をテーマとした学習事業すべてが実施できた点は昨年度からの改善だと大変評価いたします。課題点にあげられている貧困問題に関する事業実施数が他の事業と比較して少ない点については、格差が拡大し固定化しつつある日本社会の実態を鑑み重要な課題ですので、次年度充実した事業の企画を期待します。また、こうした企画に関して、図書館司書の専門性が問われてまいります。本市においても、司書有資格者の十分な人的配置を進めていくよう期待します。 「資料の収集」に関して、博物館、図書館、公民館すべてにおいて自己評価が「A」であり、その取組状況は順調であったと拝見しました。次年度も引き続き充実した事業の実施を期待します。 「社会教育に関する情報の提供」に関して、博物館、図書館、公民館、青少年活動センターにおいて、概ね取組状況は順調であったと拝見しました。次年度も引き続き充実した事業の実施を期待します。各担当課の活動形態や事業内容に違いがあること、それぞれの特色を生かして実施していくことを前提にしつつ、各課間でもっとも有効だった情報提供の方法手段に関して情報共有し補いあえると効果的な改善につながるのではないかと考えます。例えば、青少年活動センターが、児童生徒のタブレットに情報を配信していく取組は他の課でも参考になるのではないかと思います。			

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P24

主 な 取 組		乳幼児の親を支援する事業の充実					担当課	自己評価	
							図書館	A	
目 標		ブックスタート関連事業を中心とした子育て支援策を検討するとともに、「おはなし会」や「おたのしみ会」などの利用促進事業を通して、子育て、家庭教育力の向上を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果		【ブックスタート関連事業について】 ・「赤ちゃんサロン」での読み聞かせ等の実施 8回 ・3～4か月健診時にリーフレット「絵本のある子育て」の配布 【おはなし会の実施】 ・赤ちゃんおはなし会を含めた実施回数 302回 【冬のおたのしみ会】 ・実施回数 4回							
指標及び説明		【指標】 子育て・家庭教育事業の実施回数			【説明】 子育てや家庭教育を支援する事業（おはなし会）の実施数により、支援の充実度を判断する。				
指 標 の 推 移		単位	現状値	実 績 値				目標値	
		回	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			349	平時	平時	平時			350
			R 2 有事	230	284	302			R 8 有事
			72						80
分 析		令和 4 年度に再開した「赤ちゃんおはなし会」が定着してきたこと及び西武分館の実施時間をより参加しやすい時間に変更したこと等により、前年度より参加者が増加した。							
課 題 及 び 改 善 点		「おはなし会」参加者の増加に努めるとともに、読み聞かせ技術の向上を目的とした読み聞かせボランティアの育成を図り、ひいては乳幼児の親を支援する。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P24

主 な 取 組	乳幼児の親を支援する事業の充実						担当課	自己評価
							公民館	A
目 標	地域ぐるみで子どもを育てる地域づくりを目指して、関係機関・団体等との連携による子育て広場事業、家庭教育学級を開催する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	子育て・家庭教育支援事業を共催等で実施した。							
指標及び説明	【指標】子ども・子育て支援事業の数				【説明】事業数により支援の充実度を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		5	平時	平時	平時			30
		R 2 有事	27	27	32			R 8 有時
		0						25
分 析	公民館基本計画において「地域ぐるみの子ども・子育て支援の促進」を重点施策に位置付けたことにより事業化が進んでいる。							
課 題 及 び 改 善 点	事業実施数だけでなく、事業の内容についても充実させる。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P24

主 な 取 組		乳幼児の親を支援する事業の充実					担当課 青少年活動センター	自己評価 B	
目 標		乳幼児と保護者を対象にした自然体験事業「おやこ森あそび」を実施し、自然の中で親子同士の交流や自然遊びを行います。							
取 組 状 況 及 び 成 果		10回開催。リピーターを含め、参加者が増加した。							
指標及び説明		【指標】延べ参加者数				【説明】事業実施による支援数			
指 標 の 推 移		単位	現状値		実 績 値			目標値	
		人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			313	平時	平時	平時			300
			R 2 有事	200	101	172			R 8 有事
			50						0
分 析		当初の予定通り、自然体験事業を計画的に開催したこと及び、ポスター掲示やホームページ、SNS等を活用し、PRに努めたことにより、参加者が71名増加した。(前年度比61.4%増)							
課 題 及 び 改 善 点		より多くの参加者を受け入れるためのプログラム開発とPR改善を図る。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P24

主 な 取 組		小中学生の親を支援する事業の充実					担当課	自己評価	
							社会教育課	B	
目 標		P T A活動の活性化を図るため、家庭教育学級の企画運営、P T A広報紙発行の支援を行う。							
取 組 状 況 及 び 成 果		可能な範囲で家庭教育学級を実施したが、昨年度より実施回数が減少した。							
指標及び説明		【指標】家庭教育学級実施回数				【説明】家庭教育学級を実施した回数			
指 標 の 推 移		単位	現状値		実 績 値			目標値	
		回	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			0	平時	平時	平時			78
			R 2 有事	66	67	56			R 8 有事
			33						52
分 析		昨年度と比較して実施回数は減少しているが、1事業あたりの平均参加者数は増加していることから、関心のある講座を実施できた。							
課 題 及 び 改 善 点		仕事を持つ母親の増加により、家庭教育学級を担当する組織が減少している。活動を継続していけるよう、家庭でできる家庭教育学級や SNS の活用により負担軽減を図っていく。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P25

主 な 取 組	小中学生の親を支援する事業の充実	担当課	自己評価					
		公民館	A					
目 標	親子が一緒に学ぶことができる体験事業を実施する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	親子が一緒に学ぶことができる体験事業を実施した。							
指標及び説明	【指標】体験事業の数 【説明】事業数により充実度を判断							
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値	目標値				
	件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		9	平時	平時	平時			9
		R 2 有事	7	7	9			R 8 有事
		5						7
分 析	公民館基本計画において「子育て・家庭教育支援事業」を重点施策の主な取組に位置付けたことにより事業化が進んでいる。							
課 題 及 び 改 善 点	実施できていない公民館もあるため、事業の企画及び検討をする必要がある							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P25

主 な 取 組		小中学生の親を支援する事業の充実					担当課	自己評価	
							青少年活動センター	C	
目 標		自然体験等の多様な親子体験事業を実施し、共同作業により親子の一体感を高め、自らの子育ての振り返りや親子同士の交流を促進します。							
取 組 状 況 及 び 成 果		親子体験事業を3事業5回開催した。自然やキャンプの楽しさを親子で学ぶ機会となった。							
指標及び説明		【指標】延べ参加者数				【説明】事業実施による支援数			
指 標 の 推 移		単位	現状値	実 績 値				目標値	
		人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			0	平時	平時	平時			300
			R 2 有事	0	37	68			R 8 有事
			0						0
分 析		施設の特徴を生かし、親子で楽しめる自然体験事業を実施したことにより、参加者が31名増加した。(前年度比81.1%増)							
課 題 及 び 改 善 点		より多くの参加者を受け入れるためのプログラムの開発とPR改善を図る。							

主 な 取 組	学校・家庭・地域の連携の促進					担当課	自己評価
						博物館	A
目 標	専門性を生かし、ボランティアとの協働により、親子で参加できる催しや地域の特性を生かした事業を実施する。また、学校と連携して博物館授業の充実を図るほか、「むかしのくらしと道具展」等では、地域の子どもたちと主体的に関われる事業を博物館ボランティア等と協働で実施する。						
取 組 状 況 及 び 成 果	市内外小中学校等延べ64校4,623人に対して、博物館授業（オンライン授業含む）を実施。ボランティアや地域と連携した事業を9件実施。学校やボランティアとの連携を通して、地域のなかの博物館としての取組みを深めることができた。						
指標及び説明	【指標】学校・家庭等と連携した事業数					【説明】学校・家庭等との連携の度合いを判断	
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値
	事業数	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		69	平時	平時	平時	.	
		R 2 有事	57	66	73		
		5					
分 析	オンライン授業では、実物資料に触れることはできないが、移動を伴わずに博物館授業を受けることができるなど、オンラインならではの利点があり、効果的な手法により取組んでいく必要がある。						
課 題 及 び 改 善 点	オンライン授業は、より効果的な手法を検討していく必要がある。またボランティアとの連携においては、高齢化、メンバー固定化による人員減少が課題となっている。						

主 な 取 組	学校・家庭・地域の連携の促進					担当課	自己評価	
						図書館	A	
目 標	関連する市民団体や他の行政機関と連携・協力した事業を実施し、読書活動の推進を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	【小学校との連携事業】 ・図書館利用教室 小学2年生対象 実施数15校 854人 ・図書館施設見学 小学3年生対象 実施校15校 1,053人（1校は前年度に実施済） ・学校図書館ボランティア研修会 全2回 参加者44人 ・小・中学生向けのブックガイド「あれこれブックガイド」の発行及び連絡アプリ「すぐーる」での配信 小学生6,456人、中学生3,313人 ・小学生を対象とした「読書ラリー」の実施 参加者延べ704人 ・移動図書館車の小学校への定期的な巡回 8校 【その他の施設との連携】 ・学童保育室や学校等への配本サービス 定期団体36団体 23,290冊 ・市内高等学校との連携会議の実施 1回 ・関係各課所との協力事業 「平和祈念資料展」「入間市自然展」等 ・いるま生涯学習出前講座「読み聞かせ講座」の実施 6回							
指標及び説明	【指標】学校・家庭・地域と連携した事業の実施数				【説明】学校・家庭・地域と連携した事業の実施数により、連携の度合いを判断する。 (図書館利用教室及び図書館施設見学)			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	校	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		31	平時	平時	平時			32
		R2有事	32	31	30			R8有事
		0						-
分 析	小学校の日程の都合上、実施校数が減少してしまったが、小学校と連携し、読書活動の推進を図ることができた。							
課 題 及 び 改 善 点	施設見学に参加できない学校及び児童に対し、図書館公式ホームページでの動画「図書館にいこう」を案内するなどして、図書館に対する理解を深めてもらうよう努める。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P25

主 な 取 組	学校・家庭・地域の連携の促進					担当課	自己評価	
						公民館	B	
目 標	地域との連携による子どもたちを中心とした世代間交流会事業、地域交流事業を実施する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	世代間交流事業、地域交流事業等を住民や団体と共催等で実施した。							
指標及び説明	【指標】世代間交流事業、地域交流事業等の数				【説明】事業数により充実度を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	件	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
		8						9
		R 2 有事	7	7	5			R 8 有事
		1						7
分 析	公民館における事業の選択、関係団体との調整の結果、事業数が減少した。							
課 題 及 び 改 善 点	新たな交流事業の企画も含めて、地域の関係団体等と事業を計画していく。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P25

主 な 取 組	学校・家庭・地域の連携の促進						担当課	自己評価
							児童センター	A
目 標	生活課題や地域課題解決のための市民の主体的な学習活動や交流活動を促進するため、「個人の要望」に基づく学びとともに、「社会の要請」を踏まえた市民同士の学び合いの充実を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	地域との連携を図るため、児童の健全育成を推進するボランティア会等と協働し、季節行事やクラブ・教室などを行っている。また、市内の様々な場所で子どもの遊ぶ環境を確保し、遊びを通じた活動を促進するため、移動児童館や出張児童館を行っている。そして、遊び道具を積載するプレーカーを活用し、アウトリーチ事業を実施している。 ・移動（出張）児童館：プレーカーを活用し、市内の公民館や近隣の公園に出張し、地域の子もたちに児童センターの事業の一部を提供する。25回（1729人） ・出張天体観望会：近隣の施設や小学校に出張し、望遠鏡を使って季節の星や惑星・月を観測する。6回（126人） ・プレーカー貸出し事業：遊びを通じた活動等を行う市民団体を対象にプレーカーの貸し出しを行っている。11回							
指標及び説明	【指標】設定困難					【説明】－		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	－	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7 －	R 8 －	R 8 平時
		－						－
		R 2 有事	－	－	－	／	／	R 8 有事
		－						－
分 析	ボランティア会との協働事業はすべて実施することができた。また、地域のNPOや企業などとも連携し新たな事業を実施することができた。 プレーカーについても、出張児童館などを通じて、各地域に出向き遊びを展開することができた。							
課 題 及 び 改 善 点	出張児童館については、今後、効率的な人員配置と事業の見直しを図り、より拡充していきたい。							

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P25

主 な 取 組		学校・家庭・地域の連携の促進						担当課		自己評価	
								青少年活動センター		C	
目 標		青少年関係団体や地域の老人クラブ等と連携し、小学生を対象とした体験事業を実施します。									
取 組 状 況 及 び 成 果		ネイチャークラフトたいけん、ミニ門松づくり、みんなでたき火デーを実施。									
指標及び説明		【指標】延べ参加者数					【説明】事業実施による支援数				
指 標 の 推 移		単位	現状値	実 績 値					目標値		
		人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時		
			247	平時	平時	平時			250		
			R 2 有事	150	54	108			R 8 有事		
			0						0		
分 析		小学生対象の事業のほか、誰でも気軽に参加できる事業も取り入れたことで、参加者が54名増加した。(前年度比 100.0%増									
課 題 及 び 改 善 点		より多くの参加者を受け入れるためのプログラムの開発とPR改善を図る。									

施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P25

主 な 取 組	団体支援の充実						担当課	自己評価
							公民館	B
目 標	子育てサークル活動の場を提供するとともに、活動相談に応じる。							
取 組 状 況 及 び 成 果	子育てサークルに活動の場を提供するとともに、活動相談に応じた。							
指標及び説明	【指標】子育て・家庭教育支援事業の数				【説明】事業数により充実度を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	回	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		34	平時	平時	平時			50
		R 2 有事	48	48	32			R 8 有事
		15						40
分 析	子育てサークル数が令和5年度より1団体減少して5団体であったため、令和5年度と比較して、事業実施数が減少した。							
課 題 及 び 改 善 点	親子で参加できる事業等を通じて仲間づくりを促し、子育てサークルの誕生を応援していく。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (2) 家庭・地域の教育力の向上

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 5

主 な 取 組		団体支援の充実					担当課	自己評価	
							青少年活動センター	C	
目 標		青少年健全育成を支援する団体への補助金交付や行政との協働事業等を通して活動の支援を行います。							
取 組 状 況 及 び 成 果		1 団体（入間市子ども会育成会連絡協議会）に補助金を交付							
指標及び説明		【指標】 会員数				【説明】 活動・事業実施の活動者数			
指 標 の 推 移		単位	現状値		実 績 値			目標値	
		人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
			1,231	平時	平時	平時			800
			R 2 有事	811	706	399			R 8 有事
			966						800
分 析		少子化による活動の停滞化に対応し、事業実施を担保できたものの、子ども会への加入者は減少している。小学生数の減少及び単位子ども会の解散により子ども会がない地区が増えていることも会員数が減少している要因である。							
課 題 及 び 改 善 点		事業実施の継続性を確保し、活動の活性化を図ることが必要。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

施 策	(2) 家庭・地域の教育力の向上				
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価	
	乳幼児の親を支援する事業の充実	図書館	A	B	
		公民館	A		
		青少年活動センター	B		
	小中学校の親を支援する事業の充実	社会教育課	B		
		公民館	A		
		青少年活動センター	C		
	学校・家庭・地域の連携の促進	博物館	A		
		図書館	A		
		公民館	B		
		児童センター	A		
		青少年活動センター	C		
	団体支援の充実	公民館	B		
		青少年活動センター	C		
学 識 経 験 者 意 見 等	「乳幼児の親を支援する事業の充実」に関して、図書館において、「おはなし会」では実施回数が増え、また開催時間を改善するなどより参加者を増やす工夫をされるなどその成果が表れていると評価いたします。ぜひ、乳幼児の言語能力獲得はもっとも身近な母親の影響が大きいので、読み聞かせ技術をこうした会で親が学べる機会としていっそう充実していただきたいと期待します。ただし、「参加者数が増えている」と分析に書かれていながらその実数を確認できないため、参加者数をみえる化していただけるとより評価が確かなものになります。公民館においても事業数が前年度より5つ増えるなど充実して取り組まれていることがうかがわれます。こちらも参加者数をみえる化しながら分析を記載していただけるとより評価が確かなものになります。ご検討願います。青少年活動センターにおいては、自然体験活動に参加した親子の数が前年度に比べて大幅に増加しており、周知等の努力がうかがわれ評価いたします。				

「小中学生の親を支援する事業の充実」に関して、社会教育課において、家庭教育学級活動の継続課題に対して、在宅型でできる内容を充実させるなど努力をされていることがうかがわれます。近年の保護者の生活状況にあわせた持続可能な実施の工夫をさらに努めていってほしいと思います。課題及び改善点のところに「仕事を持つ母親」とあり、この事業が女性の保護者を前提に実施されている点も、共働きの状況等のかんがみて、男性の保護者の参加も可能となるような実施形態に改善していくことを期待します。公民館においては、事業数が2つ増加し進捗が順調であることがうかがわれます。ただし、参加者数をみえる化しながら分析を記載していただけるとより評価が確かなものになります。ご検討願います。青少年活動センターにおいては、自己評価が1となっておりませんが、特色を生かした自然体験事業を実施するなど進捗が順調であることがうかがわれます。引き続き参加する親子が増えるような企画を実施していただきたいと思います。

「学校・家庭・地域の連携の促進」に関して、博物館、図書館においては、小学校や中学校との連携事業の進捗は順調であることがうかがわれます。公民館、青少年活動センターおよび児童センターにおいては、世代間交流を意識した事業やプレーカーなどアウトリーチ事業等興味深い事業を取り組まれています。しかしながら、学校と地域（および家庭）との連携といった視点はやや弱いように見受けられます。この三者が連携することで、家庭・地域の教育力の向上を図るといった施策（2）の目標に対して、どのように学校が連携してけるのかが今後検討されるとよいのではないかと思います。なお、児童センターの事業評価ができる指標の設定を次年度の報告書作成の際に検討をお願いします。

「団体支援の充実」に関して、公民館および青少年活動センターにおいて、事業実施の継続性にかかわる課題が見受けられました。少子化にともなう団体の減少状況は回避できませんが、活動をどう活性化していけるような工夫をぜひ期待いたします。

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 6

主 な 取 組	体験活動の機会提供						担当課	自己評価
							青少年課	B
目 標	市民や地域との協働により、青少年の自己肯定感・自己有用感及び社会性・創造性を育み、社会を生き抜くための力の習得を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	参加を希望する児童の落選者数を削減する。							
指標及び説明	【指標】 落選率				【説明】 応募者総数からの落選者数の割合			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		-	平時	平時	平時			-
		R 2 有事	10.46	3.9	8.6			R 8 有事
		-						-
分 析	申込数、参加者数はコロナ対応期に入り減少したが、コロナ対応が定着し始めると増加した。ここ数年の参加者数は450人～650人を推移している。これは、放課後子ども教室のプログラムの質を維持し、前回の応募状況を見ながら落選者数を出さないよう調整してコース数と定員を決めているためである。 令和5年度に比べ令和6年度に落選率の割合が上がったのは、令和6年度より申し込み方法が変わったため変動したと分析する。							
課 題 及 び 改 善 点	落選者を出さないよう前学期の応募状況を見ながらコース設定数と定員数を調整する。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 6

主 な 取 組	体験活動の機会提供					担当課	自己評価	
						博物館	A	
目 標	サイエンスパーク、夏休みこどもお茶大学、むかしのくらしと道具展等、博物館の専門性を生かした体験事業を実施する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	指定管理者と連携してアリットお茶大学の実施形態を見直すことで事業の充実を図るとともに、従来の体験活動も継続して実施することで、多様なプログラムの提供につなげることができた。							
指標及び説明	【指標】体験事業の実施数				【説明】体験活動の機会の充実度を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	事業数	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		17	平時	平時	平時			15
		R 2 有事	12	21	25			R 8 有事
		2						2
分 析	子供向けからお茶の専門的な内容まで、幅広い体験事業を実施することで参加者からは好評だったが、定員の関係で希望する参加者を受け入れられない事業もあった。							
課 題 及 び 改 善 点	市民の要望に応えるために事業数を増やしたいが、現在の職員体制でこれ以上増加させることは困難な状況である。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 6

主 な 取 組	体験活動の機会提供						担当課	自己評価
							公民館	B
目 標	青少年の豊かな心を育むために、創造性や協調性を育む体験事業、自己肯定感を高めるための社会奉仕体験事業を実施する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	公民館事業として、科学体験教室や書初め教室等を実施した。							
指標及び説明	【指標】 体験事業の実施数				【説明】 実施数により、体験活動の機会提供の充実度を判断			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	件	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		35	平時	平時	平時			50
		R 2 有事	41	41	30			R 8 有事
		5						40
分 析	公民館基本計画において「地域活動の促進」を重点施策に位置付けたことにより事業化が進んでいる。							
課 題 及 び 改 善 点	様々な公民館事業において、青少年がボランティアを体験できるように工夫をしていく。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 7

主 な 取 組	体験活動の機会提供						担当課	自己評価
							青少年活動センター	A
目 標	小学生を対象にした多様な分野の体験事業、主に中学生を対象にした企画運営体験事業等、発達段階に応じた体験事業を実施します。							
取 組 状 況 及 び 成 果	七宝焼体験他芸術・文化・生活体験事業等を実施。参加者が増加した。							
指標及び説明	【指標】 延べ参加者数				【説明】 事業実施による成果数			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		779	平時	平時	平時			1,475
		R 2 有事	370	1,385	1,915			R 8 有事
		36						0
分 析	多くの方が参加できるよう事業内容を充実したことにより、参加者が530名増加した。(前年度比 38.3%増)							
課 題 及 び 改 善 点	事業内容の充実。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 27

主 な 取 組	居場所づくりの充実						担当課	自己評価
							公民館	A
目 標	青少年が学習等に利用できる「空き室開放事業」を通年で実施、春・夏休みには、「子ども居場所づくり事業」を実施する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	春・夏休み「子ども居場所づくり事業」では、一部の公民館において地域の方による見守り・協力の仕組みを実施できた。							
指標及び説明	【指標】 こども居場所づくり事業の参加人数				【説明】 参加人数により居場所づくり事業の充実度を図る			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		980	平時	平時	平時			1,200
		R 2 有事	1,070	1,070	1,477			R 8 有事
		335						600
分 析	公民館と地域の方が連携して子どもの見守り等を実施できたことにより、事業の質や効果が高まった。							
課 題 及 び 改 善 点	地区センター化に伴い、4分館が業務委託による管理となったため、4分館で春・夏休み「子ども居場所づくり事業」を実施する場合、所管する地区センター職員が分館に赴き事業を実施する必要がある。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 27

主 な 取 組	居場所づくりの充実						担当課	自己評価
							図書館	A
目 標	青少年が気軽に利用できる環境を整えとともに、青少年向けの資料の充実を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	【環境整備について】 ・ YAフリーボードの設置 ・ 試験前臨時学習室の実施 【資料の充実について】 ・ ティーンズ向け資料蔵書数 13,363 点							
指標及び説明	【指標】 ティーンズ書の蔵書数					【説明】 事業の蔵書数により、居場所づくりの充実度を判断する。		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	冊	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		12,927	平時	平時	平時			16,000
		R 2 有事	14,921	13,361	13,363			R 8 有事
		13,160						16,000
分 析	ティーンズ書の購入に努めたが、価値不要の資料を除籍したため、蔵書数は令和 5 年度から微増にとどまった。							
課 題 及 び 改 善 点	青少年向けの資料の充実は図れたが、居場所づくり事業を実施することができなかったの で、検討する必要がある。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 7

主 な 取 組	居場所づくりの充実						担当課	自己評価
							青少年活動センター	A
目 標	青少年がスタッフや友達と交流しながら自由にのびのび過ごす「むささびひろば」を実施します。また、青少年関係団体との協働により、中高生のための居場所づくりを展開します。							
取 組 状 況 及 び 成 果	森あそびクラブ、むささび食堂、施設開放を実施。参加者が増加した。							
指標及び説明	【指標】延べ参加者数				【説明】事業実施による成果数			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		3,747	平時	平時	平時			2,030
		R 2 有事	1,000	1,888				R 8 有事
		521						263
分 析	施設開放事業が地域の子どもたちに定着し、放課後や学校が休みの日に来館する児童・生徒が2,190名増加した。(前年度比116%増)							
課 題 及 び 改 善 点	内容の充実。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 7

主 な 取 組		青少年関係団体の支援の充実					担当課 公民館		自己評価 B		
目 標		地域の青少年関係団体と関係機関等との連携を図る。									
取 組 状 況 及 び 成 果		入間市中央少年少女合唱団との共催により「ジュニア合唱教室」を実施した。									
指標及び説明		【指標】 連携事業の実施数					【説明】 実施数により支援の充実度を判断				
指 標 の 推 移		単位	現状値		実 績 値					目標値	
		事業	R 1 平時		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時	
			1		平時	平時	平時			2	
			R 2 有事		1	1	1			R 8 有事	
			1							1	
分 析		青少年関係団体の数そのものが減少している中ではあるが、連携事業の実施等の支援を継続することで会員数の増加が見られた。									
課 題 及 び 改 善 点		今後は新たな青少年関係団体の誕生に向けた支援を行う。									

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 27

主 な 取 組		青少年関係団体の支援の充実						担当課		自己評価	
								青少年活動センター		A	
目 標		青少年団体への補助金交付、青少年活動者研修の実施、協働による青少年事業の実施等、多様な支援に取り組めます。									
取 組 状 況 及 び 成 果		社会教育団体への補助金交付 2団体（青少年相談員協議会・BSGS連絡協議会）に交付									
指標及び説明		【指標】 構成員数					【説明】 活動・事業実施の活動者数				
指 標 の 推 移		単位	現状値	実 績 値						目標値	
		人	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時		
			203						200		
			R 2 有事	202	210	224			R 8 有事		
			209						200		
分 析		構成員数が14名増加し、活動の継続性が保たれている。青少年相談員は7名増加し、令和6年度は埼玉県で2番目に多い委嘱数である。									
課 題 及 び 改 善 点		少子化等による全体対象者数の減少への対応と活動の活性化。									

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 28

主 な 取 組	青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成					担当課	自己評価	
						博物館	C	
目 標	高校生・大学生がボランティアとして活躍できるイベントを実施し、事業スタッフや青少年リーダーの育成を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	博物館開館30周年記念式典において東野高校ダンス部の記念演技を実施した。青少年が活躍できる場をつくることで、育成の一助になった。							
指標及び説明	【指標】 事業への参加人数				【説明】 ボランティア等の育成状況を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		1	平時	平時	平時			5
		R2有事	5	5	4			R8有事
		0						0
分 析	現在の博物館事業の中で、青少年がボランティアとして活動できる事業が少ない。							
課 題 及 び 改 善 点	指定管理者の事業等も含めて、青少年が活躍できる事業を検討する必要がある。また、引き続き近隣の高等学校とも連携していく。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 8

主 な 取 組	青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成						担当課	自己評価
							公民館	C
目 標	子ども会のジュニアリーダー養成事業等を実施し、ボランティアの育成を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	西武公民館では一部事業でボランティアの参加があり、金子公民館では金子ジュニアリーダー養成講座を実施した。							
指標及び説明	【指標】 ボランティア体験事業の参加人数				【説明】 参加人数により、地域のボランティアや青年リーダー育成の進行度を判断			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		83	平時	平時	平時			250
		R 2 有事	246	246	109			R 8 有事
		25						250
分 析	少子化により事業の対象となる世代が減少している影響を受けている。							
課 題 及 び 改 善 点	子ども会が消滅していく中で、スタッフ、リーダー養成事業の実施そのものが困難になっている。今後の事業の在り方を検討していく。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (3) 青少年教育の充実

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 8

主 な 取 組	青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成						担当課	自己評価
							児童センター	A
目 標	市民や地域との協働により、青少年の自己肯定感・自己有用感及び社会性・創造性を育み、社会を生き抜くための力の習得を図ります。							
取 組 状 況 及 び 成 果	児童の自主的な意見を運営に取り入れ、児童センターの運営や活動に生かすため、児童が意見を述べる場の提供を目的に、こども運営ボランティア事業を開催している。また、ボランティアの育成を図ることを目的に、長期休業期間中において中学生ボランティアを募集している。							
指標及び説明	【指標】 ボランティア体験事業、リーダー養成事業の参加人数				【説明】 事業参加による人材育成を図る			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		67	平時	平時	平時			150
		R 2 有事	220	305	438			R 8 有事
		34						50
分 析	こども運営ボランティアは近隣の小学生の児童が多いが、広く市内各地域から参加者が集まるように広報活動に努め、参加人数を増やすことができた。							
課 題 及 び 改 善 点	今後もより広く市内各地域から参加者が集まるように広報活動などに努めたい。							

主 な 取 組	青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成						担当課	自己評価
							青少年活動センター	B
目 標	中学生を主対象にした企画運営体験を実施し、高校生スタッフを経て、将来的な青年リーダーへと長期的な育成を行います。							
取 組 状 況 及 び 成 果	青少年企画、体験事業の実施、青少年活動センターフェスティバル（青少年企画・体験事業）の実施。							
指標及び説明	【指標】 参加者数				【説明】 事業参加による人材育成を図る			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		114	平時	平時	平時			100
		R 2 有事	0	11	24			R 8 有事
		0						0
分 析	イベント事業で企画運営スタッフを公募し、青少年の事業への参画が得られた成果である。参加者は13名増加しているが、リピーターも多く、継続して参加してもらうことで将来的なリーダーの育成につながる。							
課 題 及 び 改 善 点	子ども会等が衰退する中でスタッフ、リーダーの養成そのものが困難になっているため、関係団体と調整を図りながら、担い手養成のための事業を検討し、実施に向けて取り組む。							

施 策		(3) 青少年教育の充実			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価	
	体験活動の機会提供	青少年課	B	B	
		博物館	A		
		公民館	B		
		青少年活動センター	A		
	居場所づくりの充実	公民館	A		
		図書館	A		
		青少年活動センター	A		
	青少年関係団体の支援の充実	公民館	B		
		青少年活動センター	A		
	青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成	博物館	C		
		公民館	C		
		児童センター	A		
		青少年活動センター	B		
学 識 経 験 者 等 意 見	「体験活動の機会の提供」に関して、青少年課、博物館、公民館および青少年活動センターにおいて、自己評価がAおよびBと概ね進捗が順調であることがうかがわれます。とりわけ参加者が受入人数を超過する状況にあり、高く評価できます。引き続き事業の充実を期待します。そのなかで、公民館において、目標に「自己肯定感を高める」とあり、当該事業を実施する前と実施後でどのようにこうした意識に変容がみられたのかを指標としてみえる化していただけると評価が確かなものになります。また、青少年活動センターにおいては、目標に「主に中学生を対象とした企画運営体験」とあります。中学生の声をどのように聴き取り、それが計画に反映されているのかかわかるかたちで分析がされていると、この点の評価が確かなものになります。ご検討願います。				

「居場所づくりの充実」に関して、家か学校か商業施設にしか居場所がない現代の青少年の生きられる世界の実情をかんがみると、このような青少年の居場所が多様に設置していこうとする姿勢はとても素晴らしいと評価いたします。図書館においては、資料の充実を図れたことを受けて、次のステップとしてどのように図書館を居場所化していけるのか。ぜひ継続して検討していただきたいと思います。また、青少年活動センターにおいては、「むささびひろば」を中心に、どのような居場所にしていきたいのかを積極的に中高生から声を聴き取り、その声を反映した居場所づくりができているのかといったことがわかる分析をしていただきたいと思います。また、各担当課には、障害のある青少年にとっても居場所になりうるような居場所づくりという点もぜひ今後の課題として検討していただきたいと思います。

「青少年関係団体の支援の充実」および「青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成」に関して、青年期の同世代での体験が、その後の市民社会を担う資質能力を向上させていくうえでとても重要であり、その活動拠点となる青少年関係団体を社会教育の各担当課が担う意義はとても重要です。少子化による組織再編等の課題は難しいところがありますが、その維持発展のために頑張ってくださいと思います。

主 な 取 組	指定文化財等の保護						担当課	自己評価
							博物館	A
目 標	調査研究を通じて、貴重な文化財を指定文化財等に指定するとともに、保存と活用に取り組む。							
取 組 状 況 及 び 成 果	新たに1件の文化財指定を行うとともに、さらに1件の文化財について文化財保護審議委員会で指定に向けた審議を行った。また、国へ登録文化財（建造物）1件の意見具申を行い、貴重な文化財の保存を図った。なお、保存が必要な事業に対しては、国の補助金を活用することで、所有者等の負担を軽減するとともに、修復についての情報発信を通して市民の文化財保護意識の向上につなげることができた。							
指標及び説明	【指標】 指定文化財等の件数				【指標】 指定文化財等の件数			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	件 (累計)	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		78	平時	平時	平時			84
		R 2 有事	79	80	81			R 8 有事
		79						—
分 析	指定により文化財の直接の保存につながるが、文化財の持つ価値や魅力を発信することで、市民の文化財保護の機運を醸成していく必要がある。また、保存に必要な処置では、所有者等の経費的な負担を軽減できるように、補助金や助成金等を活用できるように情報収集を行う必要がある。							
課 題 及 び 改 善 点	文化財保護審議委員等の有識者や大学等と連携した調査・研究により文化財の価値を掘り起こし、指定文化財に指定して保護するとともに、情報として発信していくことで、市民の文化財保護意識の向上につなげていく必要がある。							

【施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実 【施策】(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P29

主 な 取 組	文化財保護啓発事業の実施						担当課	自己評価
							博物館	B
目 標	各地区に残る身近な文化財を生かし、市民に郷土の魅力を再認識してもらう事業を実施していく。							
取 組 状 況 及 び 成 果	地域の大切な文化財を火災から守るために、地域と連携した文化財防火訓練を実施した。また、文化財啓発に係る講座等を2回実施した。延べ参加者は82名だった。地域の人々に身近な文化財を通して文化財保護に対する意識を持ってもらうことで、地域で文化財を守っていく気持ちを醸成することができた。							
指標及び説明	【指標】文化財保護啓発事業への参加人数				【説明】市民の文化財保護意識の高まりを判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値		実 績 値				目標値
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		149	平時	平時	平時			250
		R 2 有事	132	1,066	82			R 8 有事
		95						120
分 析	展示を行った昨年度に比べると参加人数は減少した。各事業を通して文化財の価値や魅力を発信しているが、事業への参加者は少ない状況にある。また事業の実施とともに、様々な媒体を活用し、文化財の情報を発信していくことも必要である。							
課 題 及 び 改 善 点	様々な場面を捉えて身近な文化財の情報を発信し、市民の方々が日常的に文化財に親しむ環境を整備していく必要がある。							

【施策の体系】4 社会教育

【政策】第1項 社会教育の充実

【施策】(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P29

主 な 取 組		近代化遺産の保存・活用						担当課	自己評価
								博物館	A
目 標		旧石川組製糸西洋館・旧黒須銀行の計画的な修繕による保存を図るとともに、魅力ある活用事業を実施し、市民文化の向上や観光の振興につなげる。また、財源の確保にも取り組む。							
取 組 状 況 及 び 成 果		西洋館では、一般公開やイベントを実施し来館者は 3,425 名であった。また、旧黒須銀行では、新一万円札発行記念のイベントを実施し、398 名の来館者があった。なお、旧黒須銀行は 10 月より復元修理工事が始まっており、令和 8 年度に完了する予定である。一般公開やイベントの実施を通じて、文化財としての重要性や魅力を発信し、市民の保護意識の向上につなげることができた。							
指標及び説明		【指標】西洋館・旧黒須銀行の来館者数				【説明】近代化遺産の活用状況を判断			
指 標 の 推 移		単位	現状値	実 績 値				目標値	
		人	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
			4,656						8,000
			R 2 有事	6,437	4,313	3,823			R 8 有事
			1,610						2,000
分 析		西洋館では、一般公開やイベント、撮影への貸出等の活用を通して、継続的に建物の魅力を伝えていく必要がある。また、旧黒須銀行については、復元修理工事の情報を様々な場面で発信することで、工事完了後の活用に向けての機運を高めていく必要がある。							
		課 題 及 び 改 善 点		効果的な情報の発信や魅力的なイベントの実施を通じて、実際に来館してもらう機会につなげていく必要がある。					

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 9

主 な 取 組	埋蔵文化財の保護						担当課	自己評価
							博物館	A
目 標	試掘・発掘調査を実施して埋蔵文化財の適切な記録、保存を図るとともに、出土品等を活用した事業を実施していく。							
取 組 状 況 及 び 成 果	埋蔵文化財包蔵地において開発に先立つ試掘調査を 9 件実施し、調査結果をまとめた報告書を刊行することで、埋蔵文化財の適切な保護を図ることができた。また、発掘調査を 1 件実施するとともに、現地の見学や小中学生向けの説明会を開催することで、埋蔵文化財に対する保護意識の啓発や郷土愛の形成につなげることができた。							
指標及び説明	【指標】埋蔵文化財の報告書刊行数				【説明】埋蔵文化財の適切な保存状況を判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	回 (累計)	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		40	平時	平時	平時			49
		R 2 有事	43	44	45			R 8 有事
		41						-
分 析	工事により滅失の恐れがある埋蔵文化財を適切に記録して保存するとともに、埋蔵文化財の市民の理解を深めるために、様々な場面で情報発信していく必要がある。							
課 題 及 び 改 善 点	発掘調査に対応できる調査体制を整備するとともに、調査により新しく分かった情報を継続的に発信していく取り組みが必要である。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

【施策】 (4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 2 9

主 な 取 組		伝統文化活動団体の支援の充実						担当課	自己評価
								社会教育課	A
目 標	地域の文化を守り育むために、博物館と連携しながら地域の関係団体等との協働による事業を実施する。								
取 組 状 況 及 び 成 果	入間市郷土芸能連合会のうち、博物館が管轄する指定無形民俗文化財以外の郷土芸能 10 団体へ助成金（1 団体 15,000 円）を分配した。								
指標及び説明	【指標】 会員数合計					【説明】 10 団体の会員数の合計			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時	
		400	平時	平時	平時			400	
		R 2 有事	391	391	358			R 8 有事	
		396						400	
分 析	団体構成員の高齢化が進み、郷土芸能連合会の会員総数が減少している。								
課 題 及 び 改 善 点	団体構成員の高齢化が進む中、後継者となる人材の育成が進んでいない。 幅広い世代が伝統文化への興味・関心を高める事業を実施するなどの取り組みが必要である。								

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第1項 社会教育の充実

施 策		(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援		
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	指定文化財等の保護	博物館	A	A
	文化財保護啓発事業の実施	博物館	B	
	近代化遺産の保存・活用	博物館	A	
	埋蔵文化財の保護	博物館	A	
	伝統文化活動団体の支援の充実	社会教育課	A	
学 識 経 験 者 等 意 見	「指定文化財等の保護」「文化財保護啓発事業の実施」「近代化遺産の保存・活用」「埋蔵文化財の保護」「伝統文化活動団体の支援の充実」に関して、「文化財保護啓発事業の実施」は、前年度に比べて参加人数が大幅に減少したため自己評価が「B」となっているものの、それ以外は「A」であり、全体として進捗が順調であることがうかがわれます。引き続き、市民が自分たちの住む市の文化財の価値を理解し、郷土の魅力を意識する事業の実施を期待します。社会教育課の事業に関しては、ぜひ伝統文化の継承の課題について小中学校と連携した事業を検討していただきたいと思います。			

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第2項 社会教育施設等の整備

【施策】 (1) 施設の充実・最適化

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 0

主 な 取 組	博物館施設の充実						担当課	自己評価
							博物館	B
目 標	施設の機能維持や、来館者の安心・安全と利便性の向上につながる設備について、計画的な修繕を行う。また、館庭については、「市民の心のよりどころ」となる場として、活用方法を検討し、利用促進に取り組んでいく。							
取 組 状 況 及 び 成 果	博物館の機能維持に不可欠な近年の懸案事項であった空調設備の修繕を行うとともに、照明のLEDへの更新を行った。また館庭では、ナラ枯れ樹木の伐採を行った。							
指標及び説明	【指標】 市民意識調査の満足度				【説明】 市民意識調査の結果から判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	満足度	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		0.197	平時	平時	平時			0.210
		R 2 有事	0.218	－	0.200			R 8 有事
								0.180
分 析	市民の施設利用のため、また博物館資料の適切な保管のために、計画的に修繕を実施していく必要がある。							
課 題 及 び 改 善 点	経年劣化により不具合を生じる施設・設備が増加しており、現在の修繕料の予算では対応できない事例も発生している。							

【施策の体系】 4 社会教育

【政策】 第2項 社会教育施設等の整備

【施策】 (1) 施設の充実・最適化

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 0

主 な 取 組	図書館施設の充実					担当課	自己評価	
						図書館	A	
目 標	西武分館の空調設備工事を行い、各館でも快適な読書環境の整備に努める。							
取 組 状 況 及 び 成 果	指定管理者及び各施設管理者と連携・協力して管理運営を行うとともに、十分な協議を行い、快適な読書環境の整備に努めた。 ・西武分館の空調設備の更新が完了した。 ・金子分館では、地区センター改修に合わせて、空調設備を更新した。また、照明器具のLED化が完了した。							
指標及び説明	【指標】社会教育施設に関する市民満足度				【説明】市民意識調査の結果から、施設やサービスの充実が図られているかを判断する。(施設の利用状況「利用している割合」)			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	%	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		42.0	平時	平時	平時			45.0
		R 2 有事	37.9	-	-			R 8 有事
		-						30.0
分 析	・西武分館では、昨年に引き続き空調設備工事を行い、快適な読書環境を整えることができた。 ・金子分館では、改修のため一時休館としたが、快適な読書環境を整えることができた。							
課 題 及 び 改 善 点	西武分館のエレベーター及び自動ドアの更新が必要である。特にエレベーターについては、2階会議室が選挙投票所及び災害避難所となることから早急な対応が必要である。また、本館、西武分館、藤沢分館の蛍光灯入手が困難であり、LED化が必要である。							

【施策の体系】4 社会教育

【政策】第2項 社会教育施設等の整備

【施策】(1) 施設の充実・最適化

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P30

主 な 取 組	公民館施設の充実						担当課	自己評価
							公民館	A
目 標	老朽化が進む施設を計画的に改修・修繕するとともに、引き続き施設のバリアフリー化に取り組む。また、ユニバーサルデザインへの対応や多目的に利用できるオープンスペースの拡充など全般的な機能向上に努める。							
取 組 状 況 及 び 成 果	令和5年度から施設の管理が地域振興課になったが、連空調設備修繕工事、障害者誘導用ブロック修繕などを実施した。							
指標及び説明	【指標】社会教育施設に対する市民満足度				【説明】市民意識調査の結果から判断			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	満足度	R1 平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8 平時
		0.291	平時	平時	平時			0.320
		R2 有事						R8 有事
		—	0.297	0.297	0.329			0.300
分 析	令和5年度から施設の管理が地域振興課になったが、計画的に修繕及び工事を実施したため、目標を達成できた。							
課 題 及 び 改 善 点	工事期間中のサークル活動や公民館事業の継続について、施設管理を担当する地域振興課と更なる連携を図っていく。							

【施策の体系】4 社会教育

【政策】第2項 社会教育施設等の整備

【施策】(1) 施設の充実・最適化

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】P30

主 な 取 組	青少年活動センター施設の充実						担当課	自己評価
							青少年活動センター	A
目 標	緊急性の高いものから計画的に修繕を行っていきます。また、特色を生かし、活発で好奇心旺盛な子どもたちが気軽に来館していただけるような、安心・安全で、優しく快適な施設づくりに取り組んでいきます。さらに、青少年活動センター運営協力会会員との協働により、様々な利用者のニーズに即した魅力的な施設の整備に取り組んでいきます。							
取 組 状 況 及 び 成 果	緊急性の高いものから計画的に修繕を行った。カシナガ被害による枯損木の伐採を行った。							
指標及び説明	【指標】設定困難				【説明】—			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	—	R1 平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8 平時
		—	平時	平時	平時			—
		R2 有事						R8 有事
		—	—	—	—			—
分 析	必要な修繕を適正に行うことにより、利用者の安全確保を徹底した。また、定期的に施設内の点検を行い、ナラ枯れが発生した枯損木等について、追加伐採など適正な措置を実施した。							
課 題 及 び 改 善 点	施設の老朽化のため、安全性を確保する。							

施 策		(1) 施設の充実・最適化		
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	博物館施設の充実	博物館	B	A
	図書館施設の充実	図書館	A	
	公民館施設の充実	公民館	A	
	青少年活動センター施設の充実	青少年活動センター	A	
学 識 経 験 者 等 意 見	各施設の市民の安全な利用を促進するために、引き続き計画的な修繕・維持管理等に勤めていただきたいと思います。とりわけ、文化財の保存や蔵書の保存管理など博物館や図書館の空調設備の整備は切実なため、適切な予算確保を本市に努めていただくことを期待します。			

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 1

主 な 取 組	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実						担当課	自己評価
							スポーツ推進課	A
目 標	「週1回以上のスポーツ実施率」を上げ、誰もががスポーツに親しめる機会の充実を図る							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民が週1回以上、何らかのスポーツ・レクリエーションに関わり、継続的に実践するためのきっかけづくりとして、教室・大会等を実施しており、教室・大会の総参加者数が8,850人であった。							
指標及び説明	【指標】市主催の教室・大会・イベントへの参加者数					【説明】市主催の教室・大会・イベントへの参加者数により、市民のスポーツ・レクリエーションに対する関心度を判断するもの。		
指標の推移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	人	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		7,732	平時	平時	平時			9,870
		R2有事	5,319	7,934	8,850			R8有事
		1,610						1,880
分 析	令和6年度は雨天のため中止した事業や当日の参加者が減少してしまった事業がいくつかあったが、実施できた事業については、参加者がコロナ前より増加もしくは同等の人数になった。							
課 題 及 び 改 善 点	近年は既存事業に関しては、コロナ前に人数が戻ってきているため、今後については、新規事業を実施しより多くの市民にスポーツを実践する機会を提供する。							

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 1

主 な 取 組	スポーツ・レクリエーション事業の推進						担当課	自己評価
							スポーツ推進課	A
目 標	条例の趣旨に則り、新たなスポーツ大会の開催など、市民のニーズに合わせた事業の実施を図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	健康増進を目的とした、ラジオ体操などの事業や、駅伝競走大会などの競技力向上及び目的達成度を確認する大会を実施し、スポーツ・レクリエーション事業・大会を18事業実施することができた。							
指標及び説明	【指標】設定困難					【説明】		
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
		R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
			平時	平時	平時			
		R2有事	—	—	—			R8有事
分 析	スポーツ振興まちづくり条例に基づきアーバンスポーツを中心とした新たなスポーツ事業を開催することができた。							
課 題 及 び 改 善 点	新たなスポーツ事業を開催するだけでなく、その新たなスポーツが地域に根付くような環境づくりを検討する。							

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 2

主 な 取 組	関係団体との連携	担当課	自己評価					
		スポーツ推進課	A					
目 標	市スポーツ協会に加盟していないスポーツ団体とも連携を図り、新たなスポーツの教室や大会の実施を検討する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	市民のスポーツ活動の充実を図るため、市スポーツ協会や市スポーツ推進委員協議会等と連携をとり、事業等を実施した。スポーツ協会に加盟していないスポーツを実施している団体や事業者と連携をし、アーバンスポーツやeスポーツを中心とした、新たなスポーツの教室や大会を実施することができた。							
指標及び説明	【指標】 設定困難	【説明】						
指標の推移	単位	現状値	実 績 値	目標値				
		R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
		R 2 有事	—	—	—			R 8 有事
分 析	市スポーツ協会や加盟団体のみならず、スポーツ協会に加盟していないスポーツの団体と事業を実施することができた。また、既存事業においても内容を見直し新たな団体の参画を得ることができた。							
課 題 及 び 改 善 点	アーバンスポーツ・eスポーツを中心とした新たなスポーツが既存のスポーツと同等に地域に根付くよう関係団体と連携を図る。							

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 2

主 な 取 組	スポーツ・レクリエーションの表彰						担当課	自己評価
							スポーツ推進課	A
目 標	入間市スポーツ振興まちづくり条例に基づき、多様なスポーツ種目に対しても表彰できるよう、市スポーツ協会と調整し、スポーツ賞の規定の見直しを図る。							
取 組 状 況 及 び 成 果	スポーツ振興を図るため、優秀選手や優秀団体の表彰や奨励を行い、スポーツ賞の受賞者が126名、奨励金の交付者が41件、145名であった。							
指標及び説明	【指標】スポーツ・レクリエーション大会出場選手奨励金の件数				【説明】奨励金の申請件数により、市民の競技スポーツにおける活躍度を判断します。			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値					目標値
	件	R1平時	R4	R5	R6	R7	R8	R8平時
		29	平時	平時	平時			40
		R2有事	34	35	41			R8有事
		4						8
分 析	スポーツ賞については規程を改定し、スポーツ協会に加盟していないスポーツに対しても表彰できるようにしたことで、受賞者が増加した。							
課 題 及 び 改 善 点	スポーツ協会に加盟していないスポーツに対して表彰をできるようにしたため、大会の規模やその競技でのフォーマットがわかりにくい大会なども上がってくるため判断が難しくなっている。スポーツ賞の権威が下がらないように対応する必要がある。							

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

施 策	(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進			
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	スポーツ推進課	A	A
	スポーツ・レクリエーション事業の推進	スポーツ推進課	A	
	関係団体との連携	スポーツ推進課	A	
	スポーツ・レクリエーションの表彰	スポーツ推進課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	「スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実」に関しては、前年度よりも多くの教室・大会の参加者数となり、多くの機会を提供できた点を評価いたします。「スポーツ・レクリエーション事業の推進」「関係団体との連携」に関しては、入間市スポーツ振興まちづくり条例施行1年目にあたる本年度、アーバンスポーツやeスポーツなど新たなスポーツにも視野を広げて、教室や大会を企画、実施するなど充実に努められた点を評価いたします。それにかかわって「スポーツ・レクリエーションの表彰」も規程を改定して対応されている点も評価いたします。こうした時代にあった事業を推進していくことは、市民全体の健康増進を目指しながら、より若い世代の本市のまちづくりへの関心を高めるきっかけになると考えます。障害のある人も一緒に活動できるようなさらなる共生社会をめざしたスポーツ・レクリエーション教室・大会の企画を期待します。			

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (2) スポーツ環境の整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 2

主 な 取 組	スポーツ指導者等の充実						担当課	自己評価
							スポーツ推進課	B
目 標	限られた指導者の養成だけでなく、広く選手を支えることに視点を置いた講座等を開催する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	親子向けeスポーツの講座を実施し、保護者のリテラシーの向上に努めた。							
指 標 及 び 説 明	【指標】 設定困難				【説明】			
指 標 の 推 移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
		R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
		R 2 有事	—	—	—			R 8 有事
分 析	令和6年度においては、保護者向けのeスポーツの講座のみの実施になってしまい、指導者向けの講座を実施することができなかった。							
課 題 及 び 改 善 点	近年少年団や市スポーツ協会加盟団体のチームにおいて指導者及び保護者によるトラブルが増えているためスポーツ現場における指導方法についての講座の開催を検討する。							

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (2) スポーツ環境の整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 2

主 な 取 組	スポーツ施設の整備	担当課	自己評価					
		スポーツ推進課	A					
目 標	スポーツ施設の長寿命化及び非構造部材の耐震化を目的とした改修工事を実施し、スポーツ施設を安心かつ快適に提供できるよう整備する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	公共施設マネジメント推進計画に基づき、令和5年度より、防衛施設周辺民生安定施設整備事業補助金を活用し、2か年継続事業として着手した武道館・弓道場の改修工事が完了した。2か年事業として着手した運動公園プールの改修工事が完了した。東金子地区体育館の改修工事が完了した。							
指標及び説明	【指標】改修工事実施率		【説明】年度で予定する改修工事の実施率					
指標の推移	単位	現状値	実 績 値	目標値				
	%	R 1 平時	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
		R 2 有事	100	100	100			R 8 有事
分 析	契約工期（武道：令和5年9月5日～令和6年12月20日、運動：令和5年11月20日～令和6年6月28日、東金子：令和6年8月23日～令和7年1月31日）内に着手し、遅滞なく完了したため。							
課 題 及 び 改 善 点	施設改修にあたっては、障害を持った方を含めた、だれもが利用しやすい施設を目指した改修を行う。令和7年度に宮寺地区体育館の改修工事を実施予定。							

【施策の体系】 5 スポーツ・レクリエーション

【政策】 第1項 生涯スポーツの充実

【施策】 (2) スポーツ環境の整備

【第3期入間市教育振興基本計画の掲載ページ】 P 3 2

主 な 取 組	地区体育館の活用					担当課	自己評価	
						スポーツ推進課	B	
目 標	地区体育館の円滑かつ柔軟な利用調整を通して、地域の生涯スポーツ活動を促進する。							
取 組 状 況 及 び 成 果	コロナ禍の影響による体調確認、施設利用人数の制限及び陽性者発生時の活動停止等を定めた使用ガイドラインの完全解除を行ったが、東金子地区体育館の改修工事を実施していた期間は利用ができなかった等の事情もあり、平時の利用状況には戻っていない。							
指標及び説明	【指標】地区体育館5館の利用者数				【説明】地区体育館5館の利用者数合計			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 8 平時
		160,014	平時	平時	平時			
		R 2 有事	94,679	114,500	101,713			R 8 有事
		99,179	※1 月末実績	※1 月末実績	※1 月末実績			
分 析	令和4年度の利用者数と比べて増加しているが、平時の利用状況に戻っていないため。 ※令和6年8月～7年1月にかけて東金子地区体育館改修工事を実施のため利用者数減少。人施設当たりの利用人数令和5年度と比較して大きな増減なし。							
課 題 及 び 改 善 点	施設改修にあたっては、障害を持った方を含めた、だれもが利用しやすい施設を目指した改修を行う。平時の利用者数に戻すため、地区体育館の活用方法の検討が必要。							

主 な 取 組	学校体育施設の開放						担当課	自己評価
							スポーツ推進課	A
目 標	新規に利用可能な体育施設における登録団体数を増やす。							
取 組 状 況 及 び 成 果	学校体育施設開放事業（体育館・校庭）を円滑に実施し、新規利用可能体育施設に1団体登録。学校開放利用人数が11,568人増加（1月末実績）した。							
指標及び説明	【指標】 学校体育施設の利用者数				【説明】 学校体育施設開放対象24校合計の年間利用者数			
指標の推移	単位	現状値	実 績 値				目標値	
	人	R 1 平時 129,248	R 4 平時	R 5 平時	R 6 平時	R 7	R 8	R 8 平時
		R 2 有事 63,059	108,277 ※1月末実績	106,210 ※1月末実績	117,778 ※1月末実績			R 8 有事
分 析	令和6年度に新規に利用可能な体育施設を新たに設定し、その施設への登録が1団体あった。前年度と比較し1月末時点の実績であるが、利用者が増加した。							
課 題 及 び 改 善 点	令和6年度に新規に利用可能な体育施設において、まだ新規登録されていない施設があるため、利用施設の分散に努める必要がある。							

施 策		(2) スポーツ環境の整備		
施 策 評 価	主な取組	担当課	自己評価	総合評価
	スポーツ指導者等の充実	スポーツ推進課	B	A
	スポーツ施設の整備	スポーツ推進課	A	
	地区体育館の活用	スポーツ推進課	B	
	学校体育施設の開放	スポーツ推進課	A	
学 識 経 験 者 意 見 等	「スポーツ指導者等の充実」に関して、e スポーツに関する保護者リテラシー向上のための講座の実施など今日的な状況にあった事業が実施されていた点を評価いたします。次年度の指標については、参加者数とあわせて、参加者の意識変容に関する数値なども検討していただきたいと思います。また、改善点にあげられている指導者と保護者のトラブルも今日的な課題として重要な点ですので、ぜひ次年度事業化することを期待します。 「スポーツ施設の整備」「地区体育館の活用」に関して、引き続き、障害のある人を含め誰もが安心して利用できる施設改修を進めていただきたいと思います。 「学校体育施設の開放」に関して、利用者数状況から、市民が自分の住む地域にある学校体育施設を利用してスポーツ・レクリエーションをしていることが推察され、適切に実施されていると評価します。			

「令和6年度入間市の教育」抜粋

入間市教育の基本

入間市は、まちづくりのビジョンとして、「香り豊かな緑の文化都市」を掲げ、人・まち・自然が元気なまちづくりを推進しています。

さらに、平成29年度からの「第6次入間市総合計画」においては、10年間の行政運営において「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」を目指して、「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では「元気な子どもが育つまち」をテーマに、施策の推進を図ることとしています。

そのため、本計画においては、「豊かな人間性の育成」を教育行政の理念に据え、市民一人ひとりがさまざまな学びを通じて充実した生活を送り、さらには暮らしやすい地域づくりに向けて積極的に関わっていけるように、「学びと実践があふれるまち」をテーマに施策展開を図り、市政運営の方向性につなげていきます。

なお、本計画期間における施策の重要な方向性として次の3点を設定して、常にその方向性を確かめ、堅持していくことで、市政と連携した教育行政の推進を図り、「学びと実践があふれるまち」の実現を目指していきます。

(1) 夢の実現に向けた学校教育の充実

「子ども未来室事業※」を継続し、着実に推進するとともに、子どもたち一人ひとりの夢の実現に向けて9年間の義務教育の充実を図るため、小中一貫教育の取組や、ユニバーサルデザインの視点に立った教育※の展開など、学力の向上に重点を置いて取り組みます。そのために居場所のある学級づくりや、学びたい、わかりたい子どもの学力保障と授業改善に取り組み、主体的な学びがあふれる学校づくりを進めます。また、多様な子どもたちが共に学ぶことができるようインクルーシブ教育※システムの構築を推進します。

※ 「子ども未来室事業」とは

すべての子どもを対象にしていますが、特に障害のある子どもの自立支援を目指す取組であり、学力向上や不登校の解消もそのねらいとしています。また、早期支援として、臨床心理士による保育所（園）・幼稚園・こども園への巡回を行い、発達障害のある幼児等を支援するため、小学校就学前の通級指導教室「茶おちゃお」を設置しています。

※ 「ユニバーサルデザインの視点に立った教育」とは

すべての子どもが「わかる」「できる」ことを目指し、教育の環境を整え、指導や支援を工夫することにより、誰一人取り残すことなく、わかりやすく楽しい授業を実践することです。

※ 「インクルーシブ教育」とは

子どもたちの多様性を尊重し、障害のある子どもが精神的にも身体的にも、その能力や可能性を最大限まで伸ばし、自立して社会参加することができるようにすることを目的とし、障害のある子どもも、障害のない子どもも、共に学ぶための取組であり、共生社会の実現を目指すことです。

(2) 地域との連携と生きる力の育成

中学校区ごとに地域交流研修会を設け、地域の特色を生かした開かれた学校づくりを進めることで、地域と連携した教育力の向上を図ります。さらに、小中学校が互いの良さを共有しあい学校力※を高めることで、地域で活躍できる子どもを育てます。地域の祭りやさまざまな行事を、子どもたちが自信をもって実践し、役割を果たすことで、生きる力の一層の向上、社会的自立の促進を図ります。また、学校運

営について、学校・家庭・地域が一体となって目指すべき教育の実現に取り組むため、コミュニティ・スクール※の導入を推進します。

※ 「学校力」とは

個々の教職員の指導力が組織化された力のことです。これを高めるためには、教職員の資質を高めること、優れた教育課程を用意すること、効率的な学校運営を行うことなどの取組が重要となります。

※ 「コミュニティ・スクール」とは

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校・家庭・地域等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

（３）学びと実践による地域づくり

社会教育を総合的かつ効果的に展開していくために、市民と行政の協働による推進体制の充実を図ります。また、博物館、図書館、公民館及び体育施設では、それぞれの施設運営を通して市民ニーズを把握し、協力団体やボランティアスタッフ等と積極的に事業の創造に取り組むことで、市民の学びと実践があふれる地域づくりを進めていきます。さらに、地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により、地域全体で子どもたちの成長を支える「地域学校協働活動※」の体制整備について検討していきます。

※ 「地域学校協働活動」とは

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

入間市の教育＜グランドデザイン＞

10年間の
まちづくり
目 標

みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま

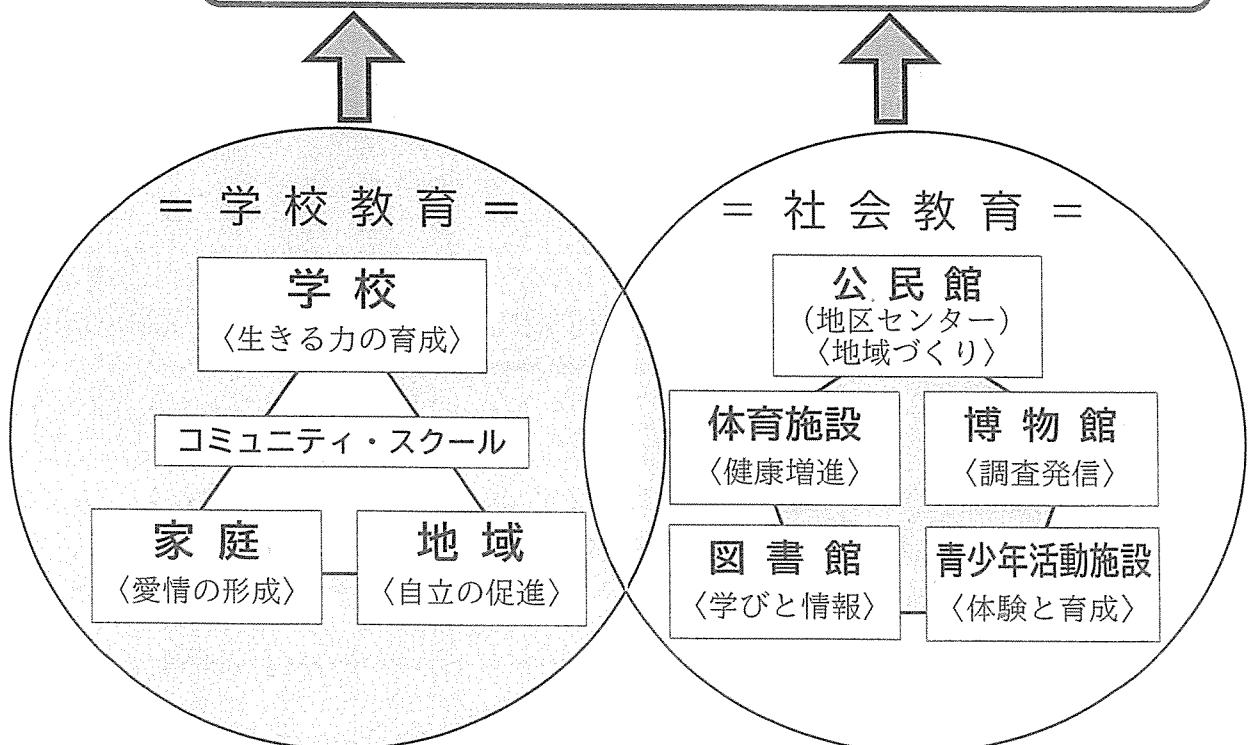
教育行政
基本理念

豊かな人間性の育成

- ☆ ふるさと入間を愛する心
- ☆ 主体的に学び・活用する意欲
- ☆ 思いやりと共生の心
- ☆ 健康増進に励む活力
- ☆ グローバルな視点と感覚

教育行政
テーマ

学びと実践があふれるまち



基本理念及び基本方針

(1) 基本理念

「豊かな人間性の育成」

- ふるさと人間を愛する心
- 主体的に学び・活用する意欲
- 思いやりと共生の心
- 健康増進に励む活力
- グローバルな視点と感覚

(2) 基本方針

質の高い教育の提供に向けた、きめ細やかな指導の充実や一人ひとりの状況に応じた教育の推進を図り、すべての市民がこれからの厳しい時代を乗り越えられるよう、市民が主体的に学び多様な人々との協働を通じ、課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、社会の持続的な発展を支え合いながら、社会の様々な場面で活躍できるまちづくりを目指すことを本市教育施策の基本方針とします。

(3) 施策体系

① 人権教育

心豊かな社会形成の基本となる人権の尊重をはじめ、平和の尊さを認識し、大切にしていくための総合的・体系的な教育活動、人権教育に係る学習機会の充実に向けた取組を推進します。

② 生涯学習

生涯学習の推進のため、学習環境を整備するとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援し、学んだ成果を生かすことのできるまちづくりへとつなげていきます。

③ 幼児・学校教育

確かな学力、豊かな心、健やかな体などをはじめ、子どもたちに必要な資質・能力を身につけるとともに、変化の激しい社会を生き抜くための力を育むことを目指し、幼児・学校教育の内容や体制の充実を図ります。

④ 社会教育

博物館・図書館・公民館等の活用を通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりによる社会教育の振興を図ります。

⑤ スポーツ・レクリエーション

健康な生活の基礎となるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。

施策の体系

1 人権教育

政 策	施 策	主な取り組み
第1項 人権の尊重と権利の擁護	(1)人権施策の推進	①人権の啓発
		②人権教育の推進
	(2)平和施策の推進	①平和意識の高揚

2 生涯学習

政 策	施 策	主な取り組み
第1項 生涯学習の推進	(1)学習環境の充実	①学習情報の提供
		②学習機会の充実
	(2)学習成果の活用	①学習成果活用の奨励
		②市民との協働

3 幼児・学校教育

政 策	施 策	主な取り組み
第1項 学校教育の充実	(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実
		②ICT機器を活用した支援
		③生徒指導・教育相談の充実
		④子ども未来室事業の推進
		⑤教材・図書等の充実
		⑥子育て家庭への経済的支援
	(2)学校教育内容の充実	①学力向上の充実
		②豊かな心を育む教育の推進
		③健康・安全教育及び食育の推進
		④体力向上の充実
第2項 幼児教育の充実	(1)幼児教育の環境整備	①子ども未来室事業の推進
		②幼児の通級指導教室を通じた支援
		③保護者への情報提供と支援
		④保幼小中連携・接続研修会の実施
		⑤幼稚園就園世帯への支援
第3項 学校施設の整備	(1)学校施設の充実・最適化	①校舎・屋内運動場の整備
	(2)学校給食施設・設備の充実	①学校給食センター施設・設備の整備
		②自校給食施設・設備の整備

4 社会教育

政 策	施 策	主な取り組み
第1項 社会教育の充実	(1)社会教育事業の充実	①学習の機会提供の充実
		②資料の収集・提供
		③社会教育に関する情報の提供
	(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実
		②小中学生の親を支援する事業の充実
		③学校・家庭・地域の連携の促進
		④団体支援の充実
	(3)青少年教育の充実	①体験活動の機会提供
		②居場所づくりの充実
		③青少年関係団体の支援の充実
		④青少年関係団体を対象にしたスタッフ及びリーダー養成
	(4)文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援	①指定文化財等の保護
		②文化財保護啓発事業の実施
		③近代化遺産の保存・活用
		④埋蔵文化財の保護
		⑤伝統文化活動団体の支援の充実
第2項 社会教育施設等の整備	(1)施設の充実・最適化	①博物館施設の充実
		②図書館施設の充実
		③公民館施設の充実
		④青少年活動センター施設の充実

5 スポーツ・レクリエーション

政 策	施 策	主な取り組み
第1項 生涯スポーツの充実	(1)スポーツ・レクリエーション活動の推進	①スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実
		②スポーツ・レクリエーション事業の推進
		③関係団体との連携
		④スポーツ・レクリエーションの表彰
	(2)スポーツ環境の整備	①スポーツ指導者等の充実
		②スポーツ施設の整備
		③地区体育館の活用
		④学校体育施設の開放

教育委員会の事務に関する点検・評価報告書

令和7年6月

発行 入間市教育委員会

(教育部教育総務課)

〒358-8511 入間市豊岡一丁目16番1号

Tel 04-2964-1111 (代表)

Fax 04-2964-4841

e-mail ir811000@city.iruma.lg.jp